

幼 兒 教 育

第 三 十 四 卷 一 月 號 第 一 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

文部省學藝官 中田俊造先生著

菊判洋綴紙數三百八十頁寫真版百卅
定價金二圓八十錢 送料二十二錢

新刊

教育上より見たる

娛樂と休養

學校に於ても家庭に於ても正しき娛樂と休養を與へよ!!

歐米に於る教育の新思潮を常に取入れつゝある我邦初等教育界にあつても娛樂教育に關する施設に付ては比較的關係の無關心の状態にあるが爲め折角學校に於ける好ま感も生徒が一度家庭に歸ればさらぬだに忙しき保護者の下にあつて自由氣儘の娛樂を追ふの結果、教育の効果は半減せられつゝあるの状況にある。若し之れを各學校に於て各種の適切なる娛樂的施設を爲し、又家庭教育に於る我邦唯一の先覺者、特に官命を帯びると具體案を樹立してよき娛樂とよき休養を與へると云ふ事は理論的にも正しき目標緊急な問題である。著者中田氏は此方面に於る我邦唯一の先覺者、特に官命を帯びて世界各國に於る教育的娛樂に關する施設を創設したのが本書である。之れを彼我國情に照して我邦に適應せる娛樂教育の實際案を創設したのが本書である。一般教育家特に初等教育家及中等教育家の必讀を乞ふ。

作業教育

學校園の設計と造園法

士林博士 原著 上原敬二 著

好評 三版

菊判洋綴紙數四百五十、挿畫八十、コロタイプ畫十六葉、定價金四圓、送料金三十三錢
本書者上原博士は學校園問題に作業教育本來の目的に合致せしむべく學校園と校庭運動場を總括した造園と云ふ範圍に迄推し廣く其趣著々傾倒して著はしたのが本書である。故に校庭、植栽、運動場、學校園、野外教育等以下學校造園に關する一切の施設を多數の挿圖と相俟つて具體的に詳説指導したものである。されば總ての學校に於て本書一本を必備せられ度殊に作業科に關する參考書指圖書としての價値は絶對である。

發行所 東京市牛込區 中野區 文館書店 振替東京三三三 電話 二五七番

生徒募集

本科生 四十名

研究生 若干名

願書受付三月廿日迄規則書
は貳錢切手封入の上申込
ま
れよ。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目二三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來十九年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

生徒募集

一本科七十名
一、研究科若干名
右募集ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三

保姆生徒募集

一、募集人員 六十名

一、出願期限 三月一日ヨリ 同二十五日マデ

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入御請求アレ

東京市淀橋區下落合三丁目一三三八八 (電話 落合 五五九
長崎)

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實

子供天地

定価五拾錢 郵税貳錢 (賣發日七月二) 號 月 三〇

誌雜繪年幼範模の法輯編新

編輯顧問

東京女高師幼稚園主事

倉橋惣三

◎子供の心の芽ばえを期らかに清く正しく生長させやうと望まるゝ方は愛兒の爲に常に「コードモントレンチ」をお與へ下さい。

◎本誌は幼年教育の本旨に基き教訓と藝術と科學と三位一體知らず識らず子供の智情意を伸ばすやう編輯してあります。

◎本誌は幼稚園及び小學校の教科を巧みに取扱ひ殊に圖畫手工に至つては新教材の紹介に力を盡して居りますから教育者諸氏にとりては好個の參考書であり又生きた教材であります。

◎本誌は三月號であります季節にふさはしい面白い爲になるものが満載してあります。

本 號 目 次 の 大 要

- ◎ 奉祝花電車 (提灯行列)
 - ◎ ひなまつり (桃のお節句)
 - ◎ 春の動物園 (珍らしい動物)
 - ◎ つみ草遊び (春の行樂)
 - ◎ 人形學校 (生徒は、先生は?)
 - ◎ お嬢さんの綱渡り (動物の曲藝)
 - ◎ かへるの散歩 (お母さんと子供)
 - ◎ 童話 (つくしのジャンケン)
 - ◎ 童話 (猫のおぼちゃん)
 - ◎ 童話 (鐘つき小僧さん)
 - ◎ 童話 (新移つき唄)
 - ◎ 其他きりぬき細工、繪さがし
- 略畫の描方、繪手本、漫畫等

編輯顧問

東京高師圖畫科主任

板倉贊治

東京町本十郷一 子供天地の社 電話大塚五三六〇 振替東京四九〇四

生徒募集

本科生 四十名

研究生 若干名

願書受付三月廿日迄規則書
は貳錢切手封入の上申込
ま
れよ。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目二三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來十九年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖書寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

生徒募集

一本科七十名
一、研究科若干名
右募集ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三

保姆生徒募集

一、募集人員 六十名

一、出願期限 三月一日ヨリ 同二十五日マデ

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入御請求アレ

東京市淀橋區下落合三丁目一三三八(電話_{落合}五五九_{長崎})

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實

子供天地

定価五拾錢 郵税貳錢 (賣發日七月二) 號 月 三〇

誌雜繪年幼範模の法輯編新

編輯顧問

東京女高師幼稚園主事

倉橋惣三

◎子供の心の芽ばえを期らかに清く正しく生長させやうと望まるゝ方は愛兒の爲に常に「コードモントレンチ」をお與へ下さい。

◎本誌は幼年教育の本旨に基き教訓と藝術と科學と三位一體知らず識らず子供の智情意を伸ばすやう編輯してあります。

◎本誌は幼稚園及び小学校の教科を巧みに取扱ひ殊に圖畫手工に至つては新教材の紹介に力を盡して居りますから教育者諸氏にとりては好個の參考書であり又生きた教材であります。

◎本誌は三月號であります季節にふさはしい面白い爲になるものが満載してあります。

編輯顧問

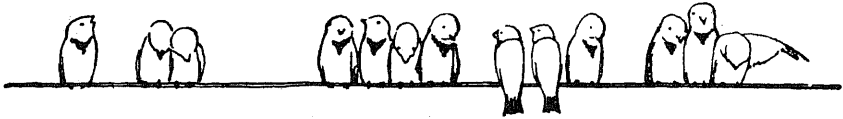
東京高師圖畫科主任

板倉贊治

本 號 次 目 大 要

- ◎ 奉祝花電車 (提灯行列)
- ◎ ひなまつり (桃のお節句)
- ◎ 春の動物園 (珍らしい動物)
- ◎ つみ草遊び (春の行樂)
- ◎ 人形學校 (生徒は、先生は?)
- ◎ お猿さんの綱渡り (動物の曲藝)
- ◎ かへるの散歩 (お母さんと子供)
- ◎ 童話 (つくしのジャンケン)
- ◎ 童話 (猫のおぼちゃん)
- ◎ 童話 (鐘つき小僧さん)
- ◎ 童話 (新移つき唄)
- ◎ 其他きりぬき細工、繪さがし、略畫の描方、繪手本、漫畫等

東京町本十郷一 子供天地の社 電話大塚五三六〇 振替東京四九〇九



號一第 育教の兒幼 卷四十三第

—(次 目)—

口 繪(陽光めがけて)	倉橋惣三(一)
卷 頭(國に充つる光と喜)	寺澤嚴男(二)
幼兒教育に於ける體育の重要性	和田實(二〇)
遊戯の自由性に就いて	淺黃俊次郎(四)
入學前期の幼兒の教育	馬淵冷佑(三)
日本童話を多く聽かせたい	堀七藏(七)
二月の觀察	廣瀨興(四)
御正月の保育衛生	岡崎常太郎(元)
のし(鬘斗)の今昔	西澤笛畝(四)
兒童に繪を教へるには	葛原しげる(四)
戌年に因んで犬の童謠を語る	成田順(五)
幼兒の服裝について	及川ふみ(六)
人形 花子さん(二)	小谷きみ(六)
私の町を中心として	津田芳雄(六)
我儘大男(童話)(三)
雜報(三)

武藏野音楽學校長 福井直秋先生著

(刊新)

兒童唱歌七十二曲集

菊版洋裝美本
箱入全一冊

定價金壹圓貳拾錢

送料金八錢

兒童唱歌の基準!! 待望の名曲集漸く成る。

俄然大好評!
注文殺到!
!評好大然俄
!す到殺文注

こつき・わかくさ・ささぶね・みいちやん・ぶらんこ・たんぼぼ・シャボンだま・あをがへる・ひよこ・さよなら・つばき・さくら・日の出・すずめのおやど・子ねこ・まりなげ・はしれ・國の祝日・ねむれ・青空・野ぎく・朝霞邊あるき・つじ・山路・ねむりませう・月・兵隊さん・風車・ご門の電燈・みなしご・冬が来た・氷すべり・蝶々・川遊び・朝風・鯉のぼり・雲雀・池の緋鯉・登山・子雀・星のひかり・山家のちいさん・月のひかり・霧・雪・春景色・田舎道・琵琶湖・夏の山・盆踊・涼しき森・汽車の旅・残れる秋草・小さき星・落葉・郊外の秋・港のにぎはひ・懐しの友・冬枯・花見・春風・小舟よ・あやめ・松風・懐し我が母・川邊の柳・うれしや我は・清き小川・冬の夜・親の恩

好重
評版

非常時日本の歌

一部金二錢
送料二錢

新尋常小學唱歌伴奏解説

全六册
定價各六拾錢
送料六錢

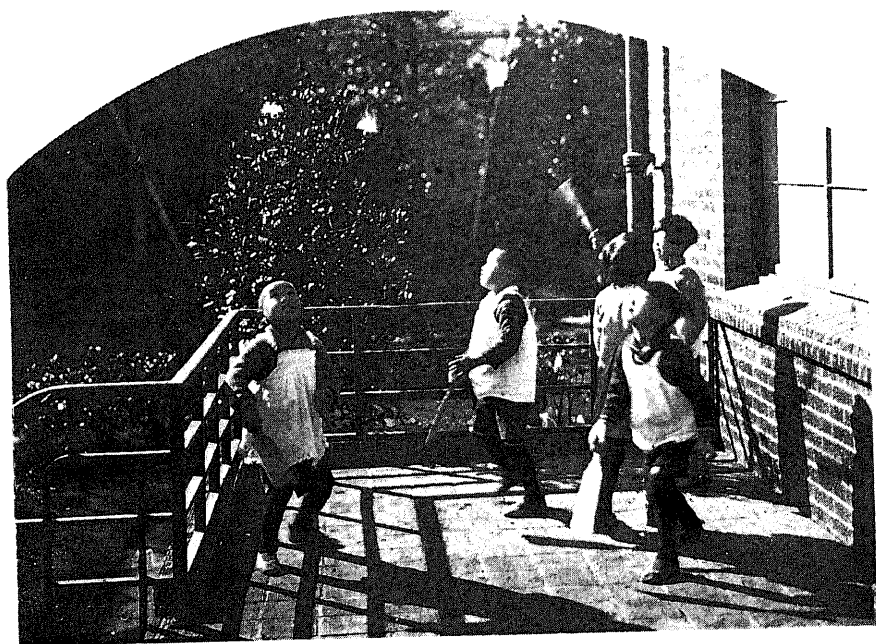
子供の舞踊

卷一・二 低學年用 各金一六〇〇
卷三・四 高學年用 各金一〇〇〇

エホンシャウカ春・夏・秋・冬の巻

定價各金三五
送料二錢

東京市神田區 東三崎一丁目 二番 音教書出版協會 振替電話 東京四七三〇 電話 七三三〇



陽
光
め
が
け
て

附
屬
幼
稚
園

幼 兒 の 教 育

昭 和 九 年 一 月

國に充つる光と喜

昭和八年十二月二十三日、その日出に先んじて、光と喜は全國を充たしてゐた。

その朝日の輝の特に赫々として天地に擴がり充ちたこまはいふまでもない。帝都の空は晴明につぐに晴明。二十九日の御命名式を経て、更に晴明また晴明。雲なく風なく和陶春の如き元旦を以て新年を迎へた。晴明は晝に止まらない。夜も亦清明。殊に一日の夜は團々たる満月皓々として、晴明白晝の如くであつた。つゞいて三ヶ日、松の内、七草、晴明更に尙ほまた晴明、こましの正月の何んたる輝かしいこまよ。

國はいま光と喜に充ちてゐる。國民の心はいま光と喜に充たされてゐる。あ、よき國日本。うれしい哉、この國の民たる。光の國日本。喜の民日本人。

(倉橋惣三)

幼児教育に於ける體育の重要性

東京文理科大學教授 文學博士 寺澤嚴男

二

世に園藝を嗜み愛する者が、菊作りや朝顔の培養なきに浮身をやつす楽しみ、或は早春の芽立ち又はすくく繁り行く初夏の翠りを見る喜びの如きは、主として其の發育の變化の著しきを目のあたりに見る事が出来るが爲めであるやうに思はれる。我等が養育又は教育の道も亦、我が手鹽にかけつゝある者の心身の發達し行く様をあからさまに目にする事が出来、且つ我が期待せる變化が顯著なれば顯著なる程、喜び深く楽しみ多きは云ふ迄もない。人間の發達に於いて其の變化の最も驚くべく且つ興味深きは、胎生期に於ける身體の發達、嬰兒期幼兒期に於ける精神の發達、若くものはない。個人の意識は果していつの頃より現れ始めるのであるか。それは既に母の體內にある胎兒期の終りの頃よりであらうか、或は生誕後始めて大氣に觸れ、眼を開いて光りに接する頃に、漸くにして意識の曙光が現れ始めるのであらうか。妊娠第五ヶ月の頃から既にそろ／＼胎動が始まるのであるが、胎動は胎兒身體の内外に起る何等かの刺戟に依つて起るものを見なければならず、而して斯かる刺戟は、單に胎兒の身體的反應を起す許りではなく、同時に極めて隱微曖昧ではあるが、既に意識の萌芽とも云ふべきものを、胎生期の終りに近づいて既に相當發達せる神經系統中に、生ぜしめつゝあるものとも考へられない事はない。併したまへかゝる想像が許さるゝにしても、元よりそれが生誕後に於ける意識よりも明確

なるものであることは考へられがたく、而して生誕直後に於ける意識は、元より極めて模糊たる黎明期の状態にあるに過ぎぬのであるから、何れにしても實際的には、先づ意識は生後に始まること云つて毫も差支へがない。即ちたゞへ精神の物的基礎としての神経系統の大體の形態的規模だけは、嬰兒生誕の際に於いて既に略々完成に近づいて居るものこと云つてもいい程であるにも拘らず、精神其の物の發達は、生誕後に始まること云つてもよいのである。されば生誕後に於ける精神的發達は、眞に目ざましきものがあるのは當然である。今嬰幼兒期に於ける精神的發達を仔細に考察する時は、例へば幼兒の或る時期に於ける言葉の發達なきに於いて之を見るが如く、眞に飛躍的急進的であり、何故にいつ如何にして斯かる域に到達し得たかに驚かざるゝ場合が甚だ多い。斯くの如きは決して唯教へて後到り得るものではなく、模倣に依つてのみ若しくは學んでのみ始めて獲得し得るものではないやうに思はれる。之は生誕せし時既に遺傳に依つて精神の物的基礎、即ち神経系統の機構が或る程度迄出來上つて居るが爲めであるかも知れぬ。何れにしても、經驗或は教育の力よりも、彼等の内部に躍動せる自然の發達の生命力が、如何に強大不可思議なるものであるかを、想像するに餘りがあること思ふ。

併し其の發達の變化が、一層著甚にして且つ更に興味深きは、實に胎生期に於ける身體的發達である。思へば今迄世界のどこにも無かつた一つの新たなたましひが、しかも偉大深遠瑰麗にして神變不可思議なるものも成り行く可き貴くも奇しき此の人間の魂なるものが、ふゞ天地の間に小さき肉塊の生れ出づるに共に、恰も無より有を生ずるものゝ如く、いつこより來ることもなく次第々々に現れ出づる此事實は、世にもいさ不思議にいさ興味ある事ではあるが、それにもいや増して驚かれるは、胎兒の身體的發達過程の變化の顯著ささ不思議さである。細微極小なる細胞が、分裂に分裂を重ねて、始めは唯丸き小毬の如きものとなり、更に進んでは或は蟲介の如く、或は蠨螋の如く、或は虵龍の如く、或は魑魅の如く、或は豚兒の如く、遂に最後には人間の形態をなすに至る迄の發達は、之を生誕後に於ける精神的發達に比するに、

一層飛躍的急進的であり、一層其の内部に存する自然的發達的生命力の偉大なる發露に驚かされる次第である。

二

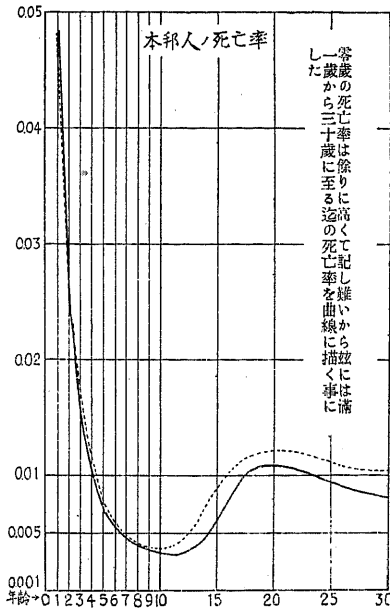
斯く心身何れの場合に於いても、其の内部の發達力は、概して發達の當初程著大に、發達の後期に至るに従うて、其の働きの次第々々に衰へ行くのを常とする。而して其の發達力の旺盛なる間には、唯其の發達に必要な資源の供給を怠らず、其の發達を阻碍す可き事情をさへ發生せしめぬことに注意するならば、之を其の赴く自然のまゝに置くも、多くの場合其の發達は隆々として獨り旺盛を極めるのを見るものである。即ち胎兒期にあつては、其の身體的發達の資源はおのづから母體の血液に依つて供給せられるが故に、胎兒の發達を阻碍すべき事情をさへ母體に起らしめなければ、其の發達は思ひのまゝに躍動發現し、其の軌道のまゝに進んで、何の力ぞや此の巧妙比類なき人のからだを、僅々二百八十日にして作り上げるのである。併しその事は嬰幼兒期に於ける精神的發達に就いても、稍々同様の趣ある事を見出し得るのである。即ち此の時期に於ける精神的發達は、其の心的内部的發達力の極めて強力なる初期に屬するが故に、之に對する周囲の者の働きかけは、嬰幼兒の精神的發達の資源となるべき經驗をば、其の發達の時期に應じて、適當なるものを適當なる量に於いて供給する事、其の發達を阻碍す可き條件をば、出來得る限り遠ざける事に存するのであつて、其れ以上の人爲、例へば工みて之を攝取せしめ消化せしめ同化せしめんとする働きかけの如きは、それ程には必要でないやうに思はれる。併し低能兒異常兒に對する働きかけに至つては、又別種の努力を要する事云ふ迄もないが、普通兒に對しては、元よりさ程の事はなさずとも、彼等の有する内部の自然の強い力を以てぐんぐん獨り伸び行き得るを見るのである。但し上に擧げた供給と排除との努力も、元よりそれは非常に困難であり、専門的技能を必要とするものであるから、普通の家庭の力だけでは、こても出來るものではない事をも知らなければならぬ。

さて嬰幼兒期に於ける身體的發達の方は、之は稍々其の趣きを異にする點があるのである。即ち前にも述べたやうに、其の發達の最も旺盛なる時期は、最早既に胎生期に於いて経過してしまつて居る。勿論出生後に於ける身體諸器官の發達も、唯其の大きさに於いてのみ増加する云ふのではなく、身體諸器官各部の大きさの割合も多少は違つて行き、又其の微細な構造も多少は變化する。併しそれにも拘らず生れ出づる時に於いて、其の形態及び構造は既に畧々完成して居り、主として其の大きさに於いて増加して行くのである云ふ事が出来るのである。前に述べた神經系統の如きも、例へば大腦皮質を構成する成層の状態、神經細胞の形態及び配置の如きは、生誕後に於いても徐々に相當の變化を呈するものではあるが、併しそれとても矢張り大體の形態的規模は、既に生誕の際に出來上つて居る云つてもよい。されば其の内部に躍動せる發達力は、生誕後に於いては之を胎兒期に比するに、既に著しく衰へて居るものと見なければならぬ。のみならず今迄母體內にあつて十分に保護せられて居つた小なる身體が、急に外部に出て種々なる抵抗刺激に暴露せられる事なるのであるから、相當外界に適應し得るに至る迄は、極めて注意深き保護を必要とする事は勿論である。母體內にあつた時は、冷い空氣に觸れる事も又それを吸ひ入れる事もなく、病原菌を直接吸ひ込んだり飲み込んだりする事もなく、直接飲食物を攝取せなければならぬ必要もなかつた。それが急に是等の働きを營み是等の危險に暴露される事となつたのであるから、一方では是等の危險を避ける事に勉めると共に、他方では是等の危險に抵抗し得るやうに鍛鍊をも加へて行かねばならぬ。即ち保護と鍛鍊との間を、所謂七分三分のかね合ひで進んで行かねばならぬ所に、細心の用意を必要とするのである。

三

次に内閣統計局編纂の帝國統計年鑑に依つて、先づ我國內地人の零歳より三十歳に至る迄の死亡率を見るに次のやうで

	男	女
0 歳	0.16204	0.14400
1 ,,	0.04845	0.04757
2 ,,	0.00611	0.02627
3 ,,	0.01655	0.01741
4 ,,	0.01050	0.01146
5 ,,	0.00704	0.00776
6 ,,	0.00534	0.00575
7 ,,	0.00458	0.00490
8 ,,	0.00392	0.00415
9 ,,	0.00341	0.00375
10 ,,	0.00317	0.00373
11 ,,	0.00307	0.00386
12 ,,	0.00314	0.00435
13 ,,	0.00357	0.00562
14 ,,	0.00452	0.00726
15 ,,	0.00597	0.00901
16 ,,	0.00766	0.01026
17 ,,	0.00920	0.01115
18 ,,	0.01032	0.01167
19 ,,	0.01083	0.01199
20 ,,	0.01080	0.01208
21 ,,	0.01060	0.01214
22 ,,	0.01039	0.01205
23 ,,	0.01020	0.01181
24 ,,	0.00091	0.01147
25 ,,	0.00951	0.01117
26 ,,	0.00911	0.01091
27 ,,	0.00879	0.01081
28 ,,	0.00851	0.01068
29 ,,	0.00832	0.01054
30 ,,	0.00823	0.01045



ある。

即ち零歳の時(生後満一歳に至る迄の間を云ふ)に最も死亡率が多く、之より満四歳頃迄激減し、尙男子は満十一歳に至る迄、女子は満十歳に至る迄は次第に減少し行き、茲に至つて死亡率最少の時期に到達し、之から又心身の大動搖期大轉換期である青春期に近づくに従うて、再び次第に死亡率が増加し行き、男子は十九歳女子は二十一歳に至つて、第二の死亡率最高潮期に到達し、之より再び徐々にして少し宛減退し行くのを見るのである。されば幼稚園期で

ある満四五歳の頃は、健康力は既に餘程増加して來ては居るのであるが、併し尙其の途中にある事であるから、小學校期及び中等學校前半期に比較するに、まだく身體的には十分の戒心を要する時期である云はなければならぬ。敍上の統計は大正十年から同十四年に至る迄の五ヶ年間の統計に基づいてなされたものであるが、斯かる趨勢が果して年々如何や

うになりつゝあるかを、同じく帝國統計年鑑に依つて、大正十三年から昭和六年に至る迄八年間の死亡千分比例について見るに、大體に於いて零歳から滿四歳に至る迄の死亡は年々少し宛減少しつゝあるが、滿五歳から滿九歳に至る迄のものは(此の間のものは、帝國統計年鑑では一括した統計だけしか記載されて居ないから、各年齢については知る事が出来ぬ。昭和四年に至る迄は次第に増加し、それから昭和六年に至る二ヶ年間は又少し宛減退して居る。されば此の點から云つてもまだ中々安心する所まで行かず、且つ幼稚園時代に於ける幼児の死亡率を歐米諸國のそれと比較するに、我が國の方著しく多い事でもあるから、此の期に於ける衛生と體育は、決して警戒の手を緩めてはならぬと云はなければならぬ。

次に滿四歳の兒童の死因を昭和六年度の統計に依つて、二十六種の死因中其の数の多きもの七種だけを、其の順序に従つて挙げて見るに、下痢及び腸炎に依る死亡が最も多く、之に次ぐのが腦膜炎、更に肺炎及び氣管枝肺炎、腎臓炎、外因死、ヂフテリア、肺結核及び其の他の結核性疾患等である。滿五歳から九歳に至る迄のものを總括したものに就いて、矢張り数の多いものから次第に挙げて見るに、此の方は腦膜炎が最も多く、之に次ぐのが肺炎及び氣管枝肺炎であり、更に下痢及び腸炎之に次ぎ、それより、肺結核及び其の他の結核性疾患、腎臓炎、外因死、ヂフテリア等が、之に次いで居る。兩者に於いて其の順序に多少の相違はあるが、大體に於いて一致して居ると云つてよい。

下痢及び腸炎に依る死亡は、統計に依るも年齢小なる者程其の數多く、年長するに共に次第に減少して居る。されば四歳に於いて其の死亡數が最大であつたものが、其れ以後に於いて稍々其の順位が落ちて居るのは當然のこゝである。下痢及び腸炎は生れつきの體質にも依るが、勿論衛生と體育に依つて其の大部分は救済し得るものである。腦膜炎に依る死亡數が、第一位若しくは第二位を占めて居ると云ふ事は、眞に驚く可き事であること云はねばならぬ。何となれば腦膜炎は、たゞへ幸にして死を免るゝこゝがあるにしても、多くの場合其の個人の生涯に互る低能白痴等を貽す恐る可き疾患である

から、最も警戒注意を怠らぬやうにせねばならぬ。第二位と第三位を占むる所の肺炎及び氣管枝肺炎も亦、呼吸器官の平素の保護と鍛錬に依つて、其の大部分は之に罹患する事なくして濟む性質のものである。第四位及び第五位を占むる所の腎臓炎は、之を統計上の小分類に就いて見る時は、急性腎臓炎と慢性腎臓炎とに分れて居り、幼少の頃は、前者著しく其の數多くして後者は極めて少いが、青春以後は之に全く反對の傾向を取つて居る。而して幼少の頃に多き急性腎臓炎は多くは他の疾患に續發するものであつて、之も亦養護よろしきを得れば多くは之を避ける事が出来る性質のものである。第四位及び第七位を占むる所の肺結核及び其の他の結核性疾患は、零歳と一歳とに於いては、殆んそ其の死亡數に軒輊が無いが、唯僅かに一歳の方に多く、それより四歳に至る迄は次第に減少する。五歳から九歳に至る迄は矢張り一括して統計されて居るから各年齢に就いてはよくは分らないが、恐らくは四歳五歳の頃は、七十歳以後の老年期を除けば、人間の全生涯中最も結核性疾患少き時期に屬するものゝやうである。それにも拘らず四歳五歳に於ける諸種疾患の死亡數中に於いては、第四位又は第七位と云ふが如く其の割合甚だ高きものゝ中の一つである。加之此の時期は兒童が次第に家庭より出で、多數の人々に接觸し始むる頃であるから、幼弱にして結核に對する免疫性薄き此の時期にあつては、恐らくは結核に感染する事甚だ多く、それが多くは潜伏したまゝに經過して青年期の頃に至つて急に爆發するのではなからうかと思像せられる。されば幼稚園期に於いて、十分に身體を鍛錬し、其の抵抗力を増進せしめ、且つ極力注意して其の感染の機會を少からしめる事は、極めて大切な養護上の勉めである事は云ふ迄もない。次に外因死も亦第五位及び第六位を占めて、其の數相當に多きものなる事を見るのである。されば此の時期に於ける健康教育中、怪我なきに對する注意も亦、相當重要なものであると云はなければならぬ。次にデフテリアは第六位及び第七位を占めて居るが、之は元より傳染病であるから、豫防上の注意を十分にすることによつて避け得られる所のものである。

元より以上述べた死亡率の外、罹病率をも知る必要があるのではあるが、據る可き確かな統計がないから、已むなく茲には説き及ばざない事とする。

以上統計的に觀察し來つた所のものに依つて、幼稚園期にあつては、小中學期に比し、一層體育を重視すべき必要があり、而して體育の重視に依つて、其の時期に於ける幼児の疾病及び死亡を著しく軽減せしむ可き可能性十分なる事をも、確認し得られた事と思ふ。

四

尙茲に附言せなければならぬ事がある。それは經驗の印銘特に深く且つ永續性大なる幼稚園期に於ける知育及び德育の効果が、他の初等教育期、中等教育期或は専門教育期に於けるものに比すれば、一層重大なるものある事は言ふ迄もない事であり、而して一步此の初期に於ける知育及び德育を誤れば、よく千里の差を生じて、其の後代に及ぼす危険ミ損失も亦一層重大なるものある事も勿論の事ではあるが、併し體育の道を誤る事に依つて、其の個人の受くる不幸損失に比すれば、そは遙かに小さいものであると云つてもよい。勿論性情等に及ぼす教育を誤つたが爲めに、遂に其の個人の一身を滅さしめるに至るやうな事も無いではないが、併し幼兒期に於ける體育の缺陷が、其の個人生涯の健康を損傷し、或は遂に其の死を來さしめる事屢々なるに比較すれば、其の個人に及ぼす危険は遙かに少いと云つてもよい。されば幼兒期に於ける體育の重視は、教育上特に高調せられなければならぬ事と思ふ。

然らば幼兒教育に於ける體育は、如何なる方針如何なる方法に依るべきであるか。それは小學教育或は中等教育等の體育に比して、相當違つた特色を持つて居らなければならぬ。併し本篇は唯幼兒教育に於ける體育の重要性を述べるだけの積りで筆を執つたのであるから、其の方法等に至つては又他日の機會に譲りたいと思ふ。

遊戯の自由性に就て

目白幼稚園 和田 實

遊戯が興味本位のものであり、娯樂的氣分の濃厚なものであることは、誰も、否むものがない。従つて、遊戯は之を強要することが出来ない。若し、之を強要すれば、娯樂的氣分は、頓に、消失して、苦痛、努力の状態となり、遊戯としての性質は一朝にして、作業の状態となることは、皆、人の承知するところのものである。

然るに、實際に、保育の状態を見て居るに、保育者の技術の未熟からして、折角、樂しかる可き遊戯を、何等の興味なき苦業の状態に置いて、然も、之を強制して居る場合は随分多い。傍に之を見て居るに、如何にも子供に氣の毒でもあり、又、保育上残念でもあり、父兄に對しては相濟まぬ様にも思へる。人の子を損ふのではないか、慄然たることも屢々であるが、子供は存外、平氣なもので、あくびをしたり、傍見をしたり、隣の子供に、いたづらしかけたりして居る中に忽ち十五分や二十分を過して、自由遊びとなり、嬉々として、飛びはねて居る。惟ふに、斯る状態の保育を行つて居る所は隨所にある様である。殊に、宗教的色彩の濃厚な幼稚園なきでは、一層、斯る状態が多い様である。嘗て、記者の參觀した某宗教的保育をして居る幼稚園では、一日の大部分を斯る一齊保育に充てはめて、自由遊びの時間は極めて尠く、幼兒は強制的に活動欲を殺され、興味欲を斷念せしめられて唯々諾々先生の指圖に従つて、或は運動し、或は手技して居るのを見た。然も、夫れが、世界に於て最も、自由を尊ぶアメリカ人に因つて、支配さるゝ幼稚園であること云ふことに於て、喫驚を禁じ得ざるものがある。吾人は之を今より三十年前に見て、是が、打破の必要を感じ、或は、會集の不必要を

唱へ、或は嚴格なる宗教的儀式的幼兒教育に不適當なるを唱へて來た。幸にして、此主義は一般に採用せられて、今日に於ては遊戲の自由は普く保育界に共通したる觀念となつた。觀念はなつたが、實際に於ては、決して、徹底したる實行を伴つては居らぬ様である。殊に、都市に於ける學級式室内保育に於て、此弊、最も、多い様である。

吾人の主とする自由遊戲保育の主張も、彼宗教式強制保育、即ち學級式室内一齊保育の様式もは極端なる保育の兩方面にして面白い對照を云はねばなるまい。一方は遊戲の自由性を極端に認めるのに對し、一方は、全然、子供の自由を無視し、徹頭徹尾、命令を以て作業的に運んで行かうとして居る。

以上二つの主義の對立は、當分の間は、何れも、結著の出來ない問題として、残るのではないかと思はれるが、吾人は何處迄も、事、幼兒教育に關する限り、遊戲自由の主張を捨てることは出來ないを信ずる。尤も、學齡を六歳とするか、又は七歳とするかに因つて、幼兒教育の年限が一年早く終るか、一年長くなるか云ふ所で多少の差違が出て來ることはあるが、兎も角、幼兒教育云はるゝ以上、遊戲自由の原則は動かしてはならぬ云ふことは吾人の年來の主張である。

所が、老婆心の強い人は、何うも、此遊戲自由主義が、危險性を含む様に考へられて仕方ないが見える。そこで、屢々吾人に向つて問ふ。曰く、遊戲の自由云ふことは、誠に、美はしい理想であり、實行も困難は思へぬが、扱て、實際に當つて、之を實行して見るに、保育者の思ふ様に、子供の着いて來ない場合がある。一つの誘導目的を立てゝ、大に、之を以て、全幼兒の興味をそゝつてやらうとしても、之に副ふて來ない子供がある。多くの子供が、興味に興奮して、夢中になつて、活躍して居るのに、平然としてぼんやりして居る。試みに、之を放任して置いて見るに、何時迄たつても、依然として仲間入をしない。是は何う云ふものであらうか。云つて心配する人がある。併し、斯う云う頑固な消極性なものは滅多にあるものではない。吾人の經驗するところでは、永くも、半年間、多くの場合に於て、一學期もするに、一

般の幼児に一所に結構遊ぶ様になるものである。然れば、千人に一人や二人の頑固な消極性のものがあるからきて、之を以て、遊戯の自由性を捨て、しまふには當るまい。返事をしない子供、嫌ひな遊戯を一向しない子供、圖畫を嫌ふ子供、唱歌を唱はぬ子供、お話を聞かぬ子供等々、十人十色で、色々な傾きを持つた子供が中々多い。殊に、家庭教育が、少し特色を持つた家の子供には、或長所を持つと共に、又、他方に相當の缺陷を表はして居り、従つて、之を矯正して一般的な圓滿な子供にするのには、可なりな誘導的努力を要するものであるが、是等個人的差異が如何に多からうとも、是が、保育の自由性を危険がる理由にはなり得ない。否、寧ろ、幼児の斯る個性的差異が、却つて、保育をして強制的に行ふことの危険を暗示して居るものと見ねばなるまいと思ふ。故に今日、子供に與ふる所のもが、或四五の子供には興味多く受取られなかつたからきて、何も、心配するにも當るまい。今日見せ付けて置いたが爲めに、明日は存外興味を起して來るかも知れない。空しき様に見える努力が、一週間の後、一ヶ月の後に、何んな好結果を齎すか知れたものではない。今日與へる所のものを、今日直に食べて呉れねば、満足出來ぬ云ふのは誘導の氣持ではなくて、是は學校教授の態度である云はねばならぬ。幼児教育は、決して、學校に於ける嚴格な教授の態度を採つてはならぬ。

所が、市内人家稠密な場所に於て、狭まい室内に多くの幼児を收容して居る幼稚園では、主義としては遊戯の自由を認めるものゝ、遊戯の種類を案配する上には、矢張り、一齊的に、教授的に時間割を定めて働き掛けることを便利とする場合が多い。従つて、未熟な保育者の活動は動もすれば、興味本位の遊戯の域を脱して、純然たる教授的作業の形質を供ふる様になつて、主義としては遊戯自由の主義を奉じて居ながら、實際には、彼の宗教式、嚴格主義の保育に墮して行つて居る場合が多い。是は頗る遺憾なこゝであるが、扱て、之を如何にして救ふこゝが出来やうか。今日保育上に於ける吾人の悩みは此處にある。

此悩みを救ふ唯一の方法は、保育者が其材料を選択するに當つて、充分興味ある材料を選ぶことである。時には娯樂氣分の濃厚なものを選ぶことも必要であらう。兎に角、幼兒が満身の努力を傾けずには居られぬこと云ふ様な興味多きものを選ぶことが必要である。幼兒の興味が充分に發揚する程のものならば、保育者の取扱方が多少、作業めくころがあつたにしろ、幼兒には氣附かれもせず、嫌氣を起させる心配もなく、仕事は運んで行くものである。幼兒の興味ある緊張の中に仕事が終わらへすれば、そして、適當な休息を弛緩が與へられさへすれば、保育は損害なく、進行するに相違ない。此處の要領さへ失ふことなくば、仕事は必ずしも、自由遊戲の形を探らぬことも、差支はない。故に、要點は結局材料の選擇如何に云ふことに歸着する。如何に、形式は理想的であつても、材料の選擇が適當でなければ仲間に入らぬ子供が多くなつて、つまりは何にもならぬ事になつて仕舞ふ。

併し、室内一齊遊戲の形式を探る場合に、大に警戒せねならぬことがある。それは、常に、幼兒の心的經過に注意して、興味的努力の程度を觀察し、之に善處することである。主義としては遊戲自由の主義を奉じて居ながら、壓制的な作業者主義に墮するに云ふことは、主として、此幼兒の心的經過を無視して、保育者の獨斷のみに、授業を進めるからこそ、起り來る弊害であるから、保育者が注意して、幼兒の興味如何を觀察し、興味の盡きたる時に、潔きよく、仕事を繰り上げることにすれば差支ない譯である。蓋し、此邊の呼吸は多年の經驗に俟つより外はない。何事にしても、注意深き經驗は眞理を教へて行く。形式でのみ議論は出來ないものである。

入學前期の幼兒の教育

東京女子高等師範學校附屬小學校

淺 黃 俊 次 郎

1、小學校としての希望？

人間の身體も心意も生活も、共にその發達は連続的なものであります。幼兒にしても兒童にしてもその發達に飛躍はなく、同様にあくまでも連続的なものであります。いま入學前期にある幼兒が、近く小學校教育を受けなければならないからといふので、何か速効的な準備を課せられることは、發達の自然に合致しないことになるのであります。幸に一般の小學校にはその學區が決められてゐる爲に、幼兒が小學校へ入學するのに競争する必要がないのであります。これは誠に結構なことでありませう。それで不自然なる入學準備教育といふものは、更に要らないのであります。幼稚園教育は幼稚園教育の本旨を以つてたゞ一筋に、十分餘裕を以つて幼兒の保育に當ることが出来るのであります。そして、さうあらねばならないのであります。

幼兒の教育を引繼ぐ小學校として、何を幼稚園に要求するか？この問題に對しては、私の教育觀から致しますと、その要求するこゝみ自體が全然間違つてゐることを考へるのであります。根本的に觀まして、中學教育が小學校教育に要求し、小學校教育が幼稚園教育に要求するといふことは、間違つてゐるのであります。しかし、幼兒の教育といふ點からならば、今日の幼稚園教育に對してもつゝ要求したいことはあらうことを考へます。小學校に於きましても、兒童の教育といふ點からは、まだまだ今日の小學校教育に對して要望されなければならないのであります。この根本觀念に於きまして、適正妥當な幼兒

教育といふものから幼稚園教育に要望したいことはあるにしても、入學前期にある幼児の教育に對して、小學校教育から特別に要求することは無いのであります。

2、入學兒童を迎へる小學校の態度

今日の小學校教育は可なりに進んでまゐつてをります。わけでも低學年教育の改善進歩は實に著しきものがあります。その最も著しい改善の傾向は、小學校教育の方から幼稚園教育に接近し、家庭教育に接近しつゝあるといふことでありまゝす。小學校教育といふものを何か鑄型の如くに見て、之に入學兒童をはめ込まうとすれば、はめ込むやうに出來た子供でなければ困る言つて、入學前期にある幼児の教育に對して大いに註文もし苦情も訴へるでせうが、今日の小學校の學低年教育は、教育の鑄型に子供をはめ込まうとはしないで、幼稚園及び家庭から預つた兒童の身體、心意、生活の状態に鑑みて、兒童に教育を適合させるのであります。

教育といふものは、何處の如何なる教育でもかくあるべきものと私は考へてゐます。即ち、「教育に兒童を」であつてはいけない、「兒童に、教育を」でなければならぬのであります。まことの幼稚園から入學したまのやうな兒童に對しても、まごの家庭から入學したまのやうな兒童に對しても、入學したまの兒童の状態に適合した教育を以つて、それらの兒童の身體、心意、生活の進歩發達を圖るべきなのであります。私共はこの態度を以つて入學兒童を迎へます。我が東京女子高等師範學校附屬小學校はこの態度を堅持してゐます。大方の一般小學校も亦、その低學年教育の改善から、以上のやうな教育的態度を以つて入學兒童を迎へ、且また教育するやうになつて來てゐるのであります。

3、幼稚園は幼稚園の教育を

幼稚園教育に當つてをられる皆様が、やがて小學校に入學する幼児に對して、小學校教育を受けるに都合のよい準備的

な教育を施さうとなさるのには、小學校にしても幼児にしても、その情に對して感謝しなければならぬわけでありませう。しかし、小學校教育としては、前にも申した如く、むしろ幼稚園教育に接近することを努めてゐるのでありまして、入學前期にある幼児をば小學校教育のために特に教育して戴かうことは考へないのであります。またさう考へるのは誤なのであります。

幼稚園はあくまでも幼稚園の教育に終始されるべきであります。あくまでも幼児の身體、心意、生活の發達の自然に適合する教育を施すべきであります。そして私に言はしめるならば、全然、小學校教育の爲か、それを受ける兒童の將來の便宜の爲か、なごを考慮する必要はないと申したのであります。若し幼稚園に於て、入學前期にある幼児に對して小學校の教育を受ける準備を施さない爲に、入學後不幸を受けるものとすれば、それは小學校教育の大なる缺陷の爲なのであります。

生れつき非常に腕白で粗暴な子供があつて、その子供が小學校に入つたら、嗚かし小學校も困るであらうと心配するところから、むりに制へつけてその子の活動性を摘取つてしまひ、その心性をゆがませるやうなことがあつては大變であります。また、自分の幼稚園から入學後の物知り優等生を出して誇りたい爲に、むりに尋常一年生の教材を入學前に詰込んでおくといふやうなことは、更々小學校としては有難いとは思はないばかりでなく、眞の教育を施すのにむしろ非常に困るのであります。

幼稚園教育は「子供の遊び」を善導するものであると私は観てをりますが、「よく遊ばせる」「こいふこいはなか／＼苦心を要し骨の折れること」であります。遊ぶために遊ぶその「遊び」が幼児の生活の主體で、よく遊ぶうちに身體・心意・生活の擴充發展が齎らされるのであります。よく遊ぶ結果として自然に學ばれることも多くなるのですが、この幼児の生活が、小

學校に入學したから急に「學び」だけの生活に一變するのではないのであります。だからこそ我々の卒先提唱する尋一の新教育は、兒童の生活の發達に着目して、幼稚園時代の「遊びを本體とする生活」から「學びだけの生活」へ急轉回させるべきではなく、遊ぶ爲に遊ぶ幼兒の生活から、學ぶためによく遊ぶ生活の指導を實施するのであります。

かう申してまゐります。如何にも幼稚園は幼稚園の教育に終始して不安はないものご考へられるであらう。全くその通りであります。しかし乍ら幼稚園としては、何かしら入學前期の幼兒に對して準備的な指導を與へないご安心の出來ない節があるかも知れません。若しさうだますれば、それは小學校教育にまだ信賴するに足らぬ部分があるわけであり。尤も、小學校の教育がごこも皆改善されてゐるわけではなく、ごの尋一教師も進んだ考へを持つてゐるごは申されないのであります。大都市の小學校でも設備の貧弱や兒童數の過多のために、不自然にして無理な舊式教育をしてゐるごころもあるのですから、その點から考へますご未だ安心の出來ないのも無理もなく、隨つて何かしら小學校教育のために、入學前期の幼兒に對して準備的な指導を施さなくてはご考へられる次第であらうご思ふのであります。

4. 文字を教へておくのはどうか

幼稚園で文字を教へるものだから、幼稚園に入らなかつた兒童ご一所に教育するのに甚だ困るご言つて、入學前に幼稚園で文字を教へぬやうに申込んだ所もありますごか。また一字一字順々に教へようとするが、兒童が知つてゐるので教へるごこが出来ず、教授が出来なくて困つてゐる尋一の先生もあるさうです。しかしこれらは何れも「兒童に教育を」施すのではなく、「教育に兒童を」はめ込まうとする間違つた考へであります。また、最近卷一の讀本が改正されて、その第一課からして「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」こいふ文章になつてゐる爲に、さうしても入學前に文字を是非教へておかなければなるまいご、一圖に思ひ込む人もあるらしいのでありますが、これも思ひ誤りであります。

入學準備のために無理に文字を教へ込む必要は少しもありません。しかし、自然に覺えるものを無理に覺えさせぬやうにする必要もないのであります。生活の自然のうちで、遊びの自然のうちから、幼児が文字に親み文字に興味を持たば、いつかひきりずに子供は文字を覺えるものであります。殊に都會地の子供にまつては、自然、文字は生活の環境をなしてゐるのであります。それを無理に覺えさせまいとし或は覺えてはならぬを止めるのは間違つてゐるのであります。小學校も亦、この幼児の生活的な自然的文字修得をば充分に認めて、兒童の状態に應じて教育すべきなのであります。

文字は違ひますが、數に關する教育で幼児に算術を教へ込むことも注意すべきであります。事實に就ての眞の數量觀念はまるでないのに、徒らに形式算風の空虚なものを言葉だけで覺え込ませる事などは、入學後の算術教育に大變わざはひするのであります。大體に於て、學科的な知識を入學準備として教へ込んでおくさいふ事は無用なのであります。

5、學習態度を養つておくことは？

四月に入學するのであるから、そろそろ學科を勉強する態度を持たせておかなければなるまいなと考へるのは、あまりに老婆心であります。遊ぶことばかりさせないで、少しは學ぶことも準備として練習させておかうなと考へるのも無用なのであります。今日、幼稚園教育に對する識者の非難があるをしますれば、それは一部の幼稚園が小學校教育の眞似をして、型にはめ込む訓育をしたり、物事を教へ込む教授をするものゝあるといふ點ではないかと考へるのであります。あくまでも「よく遊ぶ」ことの生活に對して指導するといふことは、事實として内容の充分に伴つた觀念を得させることになつてゐるのであります。よく遊ぶことによつて數量觀念も得させることが出来るし、言葉や文字も自然に覺えさせることが出来るのであります。

學習態度は學校の規律的生活なきは、小學校で段々に馴致すべきことであります。故に今日の尋一教育は、入學と共に

にがらりき兒童の生活態度を急變させないやうに、幼稚園風に學校生活をさせ、家庭風に導く傾向になつてゐるのであります。しかし、幼兒の入學するその小學校の教育が、未だに舊式で固陋でありますれば、入學前期に几帳面な規律的生活を準備して習慣づけて置いた方が、却つてその子の爲に幸であるかもわかりません。

幼兒が小學校に入學すると同時に、まるで子供の生活態度が急激に變つてしまふこゝがあれば、それは不自然なる強制的教育が行はれた證據であります。幼稚園時代の生活や家庭生活によく連續を保ちつゝ、自然的に生活を指導して發展させる教育が、よき教育法なのであります。家庭教育で及ばない所や間違はれた所を、幼稚園や小學校の教育で矯正補育しなければなりません。子供の身體・心意・生活の指導を合自然的に行ふこゝいふならば、入學したからこゝて家庭や幼稚園の生活状態を離れた生活を急にさせるこゝとはいけないのであります。

6. ごんな子供を要求するか

幼稚園によつても色々きその訓育法に特色があつて、まるで小學校風の舊式な躰方をする所から、入學兒童が如何にも「教へを受ける」こゝいふ態度に出來上つてゐるのに驚くこゝがあります。また家庭によつてもさういふのがありまして、幼兒にはかに生徒らしく固まつて入學するのがあります。「學校に入つたらしつかりお勉強するんですよ」とか、「しつかり先生のおつしやるこゝを聞くんですよ」とか、「おきなしくして先生に叱られないやうに」とか、小學校入學期に急激に然も強大に押しつけるのであります。故に兒童は甚だ消極的になつて、自分から殆んき發動せず、たゞ先生の教へを受取るこゝだけに専念するこゝになるのであります。實に氣の毒も可哀想であります。さういふ出來上つた態度の兒童は、少なくも私共の尋一教育には困るのであります。

子供として自然な發達をした兒童が望ましいのであります。自發活動性に富んだ子供が何よりも望ましいのであります。

す。自分から興味を以つて働き出し考へ出す児童が望ましいのであります。それでは尋一の教師が困るだらうなき、同情なさる必要はないのであります。學校にいふ所は机を腰掛に釘付のやうになつて、教へるこゝを受取ればそれでよい所であるかのやうに思ひ込ませるのは、最もいけないこゝであります。

共同性を持ち、他人を仲よく生活の出来る子供は、これ又望ましいこゝであります。たしかに今日の幼稚園をふんだ児童は社會性を養はれてゐます。小學校も児童の社會性の啓培を目指して教育しますが、この社會性のある活動さうものは、説明や訓諭で養はれたるものではなく、やはり共同生活をさせるこゝによつて養ふこゝが出来るのであります。進んで遊戯を共同する子供、進んで作業を共同する子供——さうした興味を意欲を持たせられてゐる子供は、誠に望ましいのであります。

一般の小學校からしますと、大體四十人以上六七十人の學級にして指導しますが、入學當時の児童の指導で困るこゝは、例へば「皆さん」といつて六七十人全體に對して教師が指示する場合、子供はこの「皆さん」の中に自分が含められてゐる、自分のこゝであるさういふ意識が甚だ薄いさういふこゝであります。教師が全體に對して「皆さん」式に指示し指示しようとしても、子供は他人のこゝのやうに思つて、めいめいが自分のこゝでないかの如くに馬耳東風であります。そして必ず改めて自分の事であるこゝをめぐりが教師に念を押すのであります。「皆さん」と言はれたならば全體の事であり、そして必ず自分の事であるさう強く意識するさういふこゝは、これ即ち社會性のある所以で、かくの如き一寸こゝではあるが「皆さん意識」を相當に持つて入學するさういふこゝは、尋一初期の指導上大變都合なのであります。しかしこの點に關して、年一、二幼稚園教育を受けた入學児童に其の進歩を私共は見得るのであります。尙入學前期にある幼児に對して、この方面の指導をして戴きたいやうに考へるのであります。

日本童話を多く聴かせたい

馬淵冷佑

ぶお話に轉じて來たのだこいはれてゐる。

童話は廣義に考へるこゝ、笑話・寓話・お伽噺・傳説・神話・史話・現實話等、兒童の喜ぶ一切の物語を總括するのであるが、普通はこれを狹義に解してお伽噺そのものをいふやうである。幼稚園から小學校の幼學年へかけての物語教材は、お伽噺が大部分を占めてゐると思ふから、かたぐこここでは狹義の童話——お伽噺として述べようと思ふ。

元來童話は民族の喉から湧出た空想的な聲であつて、民族の心持が期せずして物語に凝集したもの、いはゞ集團情緒の噴水のやうなものである。その發生當時においては、超自然的靈物を中心したり隨處に出現させたりして、これに信仰的氣分を寄せたのであるが、時代の推移につれてその氣分が消失して、今日では全然空想となり、兒童の喜

ぶお話に轉じて來たのだこいはれてゐる。童話は全部空想的事件で埋められ、活動性や複雑性や變化性に富んで、その上反復が多いこゝいふ特質を持つてゐる所から、多大の憧憬と愉悅を兒童に與へるのであるが、童話には又文學的要素が多分に盛られてゐるこゝも見逃してはならない。これらについても少し述べたいのであるが、本題に入るこゝを急ぐために、省略するこゝとする。

たとゝ童話の定義であるが、私は今にそれを表す適確な言葉を知らない。童話學者もこれを困難として明確な定義を與へてゐないやうである。で私は通俗的ではあるが、童話學者が定義を下してくれるまで、

童話は兒童の喜ぶ無邪氣な架空的物語である。こゝ假に定めてをる。これで一通りは通すると思ふ。

以上は一般的な童話についてのほんの大體の觀察であるが、これから本題に入つて、少しく私の考へてゐる所を述べさせてもらはうと思ふ。私は、幼稚園から小學校の幼學年へかけて、殊に幼稚園では日本童話を多く話し聽かせることを希望する一人である。

日本童話が全體泰西童話と同じく、幼童に喜ばれる特質を持つてゐることは、童話研究家の間にも認められてゐるのであるが、日本童話はその上に世界に優越した日本精神を反映してゐることを深く考へなければならぬ。祖國意識が蘇つて盛に日本精神の本質が究明されつゝある今日、幼童の指導者として日本童話を再認識することの必要を一層痛感するのである。

日本童話といつても、純粹に祖國から發生したものの外に、印度あたりから渡來したものもあるやうである。然しこれらの童話も、幾百年の星霜を経過した間には、すっかり日本化されて日本精神の浸潤を受けてゐるのであるから、やはり日本童話と言ひ得るのである。

日本精神の根本的要素は、夜明の氣分——夜が明離れて一點の曇もなく、晴れくした、清らかな、朗らかな、明るい爽やかな氣分で、然もぼうつみ櫻の花が色づいたほぎの色合をもつてゐる。本居宣長が

敷島の大和心を人間はば

朝日ににほふ山櫻花。

と詠じ、畏れ多くも明治天皇が

さし昇る朝日の如く、さわやかに

もたまほしきは心なりけり。

と御歌ひになつたのは、最もよく日本精神を發揮したものだと言はれてゐる。約言すれば「清明」又は「明かき心」、この心持が日本精神の根本であつて、これが變相していろいろな心持を顯現するのだから聞いてゐる。

日本童話の内容を仔細に研精するに、この尊むべき日本精神がさまざまに變化して一つ一つの童話に浸潤してゐることが發見せられ、永遠的な心持が自然に感じられて來るのである。

試みに日本五大噺の中に數へられてゐる「桃太郎」「猿蟹」

「花咲爺」について考へてみる。「桃太郎」は桃太郎それ自身が日本精神の象徴である。平和の目的を以て、日本へ仇をしに來る鬼が島の鬼ごもを退治に行つた進取の氣象、犬・猿・雉に日本一の黍團子を與へた慈愛、仲の悪い犬と猿を懷けて融合させた徳化力、鬼の巢窟に飛込んで、鬼と闘つた剛勇、鬼ごもが降参したら、直ちにその罪を許した寛容、その精神において行動において、少しも間然する所がない。桃太郎は日本精神を象徴する偉大な架空的人物だといつてよい。桃太郎に縁りのあるさいふ愛知縣犬山に、有志の人たちが「桃太郎誕生之地」の碑を建て、桃太郎を思慕するもの謂はれのあることである。

「桃太郎」は侵略主義だミカミリズムだミカいつてその内容を批難するものもあるが、現代の「桃太郎」にはそんな心持は毛頭ない。實に桃太郎は平和の主唱者なのである。桃太郎が寶物を持つて凱旋したのは、鬼ごもが命を宥してもらつたお禮に差出したのを受けたまでのことで、掠奪したのではなかつた。

「猿蟹」は從來復讐の心持に解されてゐたが、今日では社

會的制裁の意味に考へられて來てゐる。若し子蟹が一人で猿の首を齧み切つたミすれば復讐の意味にならうが、人家からは白、里からは蜂、山からは栗、海からは昆布ミ、各方面からの代表者が集つて鳩首凝議したところから考へるミ、復讐ミいふよりも寧ろ社會的制裁の意味に考へるのが至當のやうに思はれる。この意味の解釋が有力になつた結果、一時時代錯誤ミして國民生活から遠ざからうミしてゐた「猿蟹」が永遠の生命を附與せられたことになる。

濫い青柿を投げつけて蟹を殺した猿は、日本精神から脱線した平和の破壊者であり、子蟹に同情して義憤を起した白ミ蜂ミ栗ミ昆布は日本精神の象徴である。「明かき心」の持主が集つて、慘虐を敢へてした暴行者を死罪に處して平和を恢復した所に深い意味がある。

「國定新讀本」に出てゐるサルトカニは、雖廻字計木(梅辻規清)に據つてその筋を幾分變へてある。蟹が猿に青い柿を投げつけられて大怪我をしたので、白ミ蜂ミ栗が相談の結果猿を懲らすことに決し、猿を蟹の宿に呼んでうんミ苦しみめた後、蟹が猿の首を齧み切らうミした土壇場に、猿は前

非を悔いて謝罪した。そこで蟹がその罪を宥し、元の平和に復したこゝになつてゐる。これによるこゝ、猿は日本精神から脱して再び日本精神に立返つたこゝになる。

「花咲爺」は因果の關係を暗示した説話のやうに思はれる。慈悲のお爺さんご強慾なお爺さんが現れて、慈悲のお爺さんは飼犬を我が子のやうにかはいがるし、強慾なお爺さんは慾の爲には亂暴な行爲も敢へてするのである。この性格の反した二人のお爺さんが、蟲ご白ご枯木の三段に互つて正反對な行動をして、慈悲のお爺さんは善い結果を、強慾なお爺さんは悪い結果を得たこゝになつてゐる。

これを日本精神から觀るこゝ、慈悲のお爺さんは「明かき心」の持主で、強慾なお爺さんは「黒き心」の持主である。日本精神の「明かき心」が輝いて、日本精神から脱線した「黒き心」が影を潛めたものご見られる。

かやうに日本童話は、「黒き心」のものが出て活動を始めるこゝ、おきまりのやうに「明かき心」のものが現れてそれを制するか、でなければ自然ご「明かき心」のものが榮えて、「黒き心」のものが衰へるやうに機構されてゐる。決して月

並式の教訓ではないのである。

更に日本童話は「清明」の心持からお話ご自然ご統一して核心が輝き、少しも不要な事件を混入してゐない。これも世界に誇つてよい點である。日本童話ご泰西のに比して淡白で素朴である所なごも注目すべき點であらう。それから表現形式を見て、それごお話の筋に應じて對立・循環なご特殊の形式を具へてゐて、泰西の童話に劣つてゐるごは少しも思はれない。

以上述べた所から、私は幼童の物語教材としては、日本童話を本體とし、これを正しく話し聽かせて健全な日本人を養成することに努むべきではないかと思ふ。もごより日本童話の外に、創作童話や外國童話も話し聽かせる必要はあらうが、これらは餘裕のある場合において補充として取扱ふべきもので、本體ごすべき性質のものではなからうかと思ふ。

然るに幼童指導期間中、さうかするこゝ、創作童話や外國の童話は割合に多く話し聽かせるが、肝心の日本童話を等閑に附して、ろくご話し聽かせないで終る場合がないこ

も限らない。たまに話し聽かせるこゝがあつても、杜撰に取扱つてしまつて、お話の筋や表現形式や言葉遣なごを充分に取扱はない場合も生ずると思ふ。斯くては尊むべき日本童話も漸次滅び行くか、よし傳はつても不完全な形にしか傳はらないであらう。そしてその結果は、遂に日本精神を體得するに至らずして、恐るべき思想問題を招來するこゝになりはしないかこ杞憂せられるのである。幼童指導の任に當るものゝ深く反省しなければならぬこゝである。

三

日本童話を話し聽かせるには、先づ代表的な日本童話の中から適當なものを選択して、その心持を表現形式を研精し、更にこれを如何なる言葉で以て話し出すかを工夫しなければならぬ。

幼童に適當する童話としては、

桃太郎 花咲爺 猿蟹 舌切雀 瘤取 鼠の嫁入

海月のお使 猫の草紙 文福茶釜

なごは動かぬこゝろであらうが、この外にも十數種ほど選擇したいものである。「世界童話大系」(日本の部)に百七

十四種の童話が出てゐるが、この中には笑話と傳説と神話が含まれてゐるから、これらを除去したお伽噺の中から選擇したら、適當なものが見出されるかも知れない。こゝに幼童の爲の童話教材選擇は、長い年月をかけて努力しなければならぬ問題であると思ふ。

いよく教材の選擇が終つたら、その一つ一つについて、これはどういふ心持のお話であるかを適確に考へなければならぬ。もよよりこの心持は幼童に理會させるべきものではないが、話者としては心得ておく必要があると思ふのである。愈々その心持が明瞭になつたら、更にこれを日本精神と照合して、日本精神の如何なる方面が表現されてゐるかを究めるまでに進みたい。

日本童話の表現形式には、反復・漸層・對立・循環等の諸形式があるが、これは繁雜になるから説明を省くこゝにする。

最後に述べたいこゝは、特に幼稚園では、お話するまゝを記録し、これを幾度もなく批評して推敲を加へ、所謂幼稚園話を完成するこゝである。幼稚園話は童話雑誌に時々見受けるが、まだ完全なものは出來上つてゐないやうであ

る。かうはいふものゝ幼稚園話の完成はなか／＼の難事であつて、小學校の幼年生に讀ませるお話をかくのまは尠を異にするに相違ない。が永い間かゝつて専心したらきつこ成功するま信ずる。

幼稚園話が一つでも成功したら、話者はこれによつて豫めお話を修練し、幼童に對して幾度話し聽かせても、一句一語の末に至るまで同じやうに話せるまでに至ることを私は切望する。若しいくらお話を練習しても思ふやうに話せない場合には、お話の原稿をお話する通りに朗讀してもよいのである。幼稚園話ほもま／＼幼童に對してお話するまゝをかいたものであるから、朗讀さへよければ、お話するま少しも違はないことになる筈である。

慾をいへば幼稚園話は普通のお話の形式をまつたものゝ外に、例へば「桃太郎」や「舌切雀」を韻律的にして長い童謡の形に仕立てたものも望ましい。この種のお話がま／＼こゝろ／＼に挟まれたら、韻律の愛好者たる幼童はこの上もなく喜ぶに相違ない。これは又一層困難な事業である。

お話をする際、美しい繪畫を合はせたり、上品な身振を

幾分したりする必要は、今更いふまでもない。

幼童は同じお話を時を隔てて幾度も要望するものである。その度毎に話者は正確な記憶によつて、前と同様に話し聽かせるやうにしたい。前に一度話しておいたからといつて、お話の筋を省略したり、概括的な言葉を使用したりしてはならないと思ふ。

葛原しげる氏新著

「童謡教育の理論と實際」

童謡作家たると共に童謡理論家たる葛原氏の新著は待望の裡に生れた。その内容の價値は更めて讚するまでもない。二十年來童謡道の巡禮者を以て任ずる著者、而して實に我國童謡界開拓者たる著者の教ゆるところを聽かなければならない。

(東京市京橋區横町隆文館發行)

二月の觀察

堀 七 藏

二月は一般に庭に出ることが困難であるから、動物園でつこをなさしめるさか、動物園をこしらへさせるやうな作業が面白い。動物園にゐる獸類鳥類等の實物を參觀させる

にこしたことはないが、いろいろの獸類や鳥類の標本や寫眞また繪畫などをよく觀させるがよい。勿論個々の獸類や鳥類の形態的習性を主とすべきもので、分類的な知識を授與するが如きことは禁物である。長鼻類ださか、肉食獸ださか、偶蹄類ださか、更に猛禽類ださか、涉禽類なごさか、いふが如き分類的な知識は、尋常小學校の理科に於ても程度が高いので取扱はれないのである。それを保母が知つてゐるからきて、また繪本なごに書いてあるからきて幼児に教授したり説明したりするこは、幼稚園令施行規則第一條に

ある「幼児ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムベク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ズ」の精神から見てもよくないこが明白である。

二

いろいろの獸類を觀察させて、それを繪でかき、厚紙を切り、また粘土で製作したりなごして、それを總合して動物園をつくる作業は幼児の遊びさして、觀察、手技なごを組合せた保育事項さして、頗る面白い、次に參考さして先づ獸類の形態の著しい點を説明するがこれを幼児に教へるのではない。

(一) 猿類、多くは樹上に生活し、好んで果實を食ふ。四肢は皆手の用をなし、枝を握ることが出来る。前肢は後肢より長く、爪は扁平である。本邦には顔の赤尾の短い猿の一

種だけ産する。顔面赤く鼻低く顎が突出してゐる。頬囊があつて食物を入れておき、後に徐々に食ふ。猿のしりだこは皮膚の上層角質層が厚く堅くなつたものである。一産一子にして子を愛する情が深い。性伶俐にして人に馴れ、諸藝を演ずる。

猿類にはいしやうじやう、くろしやうじやう、ゴリラ、手長猿、尾長猿等がある。

(2) 食肉類又は猛獸類には、しし、みら、へう、ねこ、いぬ、きつね、たぬき、おほかみ、いたち、かはうそ、くま等がある。ししは全身淡褐色、砂の色に近い。夜獸で、日中は多く原野に潜伏し、日没頃から出て餌を捕食する。雄にはたこがみがある。頸、四肢の筋肉強く肉を噛み裂くに適する。門歯は小で犬歯は強大である。趾の裏柔く、歩行の際音を生ぜず、靜かに餌に近くこぎ出来る。趾の末端には鋭き爪がある。

みらはアジアの特産である。支那、滿洲、朝鮮等にゐる。晝間は叢中に潜み、夜出で、食を求めゐる。獸類の眠れる所を襲つて捕食する。體は鮮黄色で黒色の縦縞がある。

へうもアジアの産、森林中に棲む。全身の表面にある斑紋は木葉の影に紛れて、その所在が知られ難くなつてゐる。へうはししやみらと異なり樹にのぼるこぎ出来る。

いぬ、きつね、たぬきはねこに似てゐるが、顎骨が長く口吻が突出し、爪を伸縮する装置がない。また樹上にのぼるこぎが出来ない。たぬきは一名むじなさいひ、その毛皮は防寒用に適し高價である。きつねは穴居動物である。夜獸で性狡猾である。くろきつねの毛皮はらつこに次いで尊ばれる。おほかみはアジア、ヨーロッパの北部に産する。我國にゐるのはやまいぬである。ぬくては朝鮮にゐるおほかみで、背は稍々茶色、腹は灰白色である。胴は細長く、尾は下垂してその先が黒い。顎及び背には剛毛密生し、顔はきつねに似て口吻がこがり、四肢が比較的長く、耳も長い。人畜を咬殺する。

いたちは夜出で、鳥類等を捕へてその血を吸ふ。體長く四肢が短い。激しき惡臭あるガスを放つこぎがある。

かはうそはいたちに似てゐるが、趾間に蹠があり、巧みに水中を遊泳して魚類を捕へて食ふ。

額骨から突出した骨の軸があつて之に表皮の角質化した鞘が被つてゐる。きりんキリンの角は毛の生へた皮膚をかぶれる儘である。是等の角は終生落ちぬ。

鹿の角は又角カウと稱し、牛の角ホウは異り、枝があり全部骨質である。角の基部には皮膚で圍まれた角座があり、この部分の皮膚が次第に伸びてその中に軸骨が出来、角座の骨質コウと癒着する。而して外側の皮膚は軸骨が充分成熟するまで角の上を被ふて所謂袋角カウとなつてゐる。しかし段々皮膚が乾燥するから自ら角を樹幹キなカにすりつけて之を剝落し、軸骨を露出するものである。又角は年々落ちて生へかゝる。鹿は雄のみ角がある。鹿の蹄は勿論二つ地に接してゐる。

ミナカミナカは雌雄共に又角がある。樹木の生ぜざる地方に産し、雪に埋れた地衣類を角で掘つて食カする。

らくだラクダは角がなく、蹄が小で趾の裏面は柔かである。胃の一部に數多の小囊が附著してゐるから、一度飲みたる水を永くこの中に貯へ數日飲まずカも渴すカことがない、らくだには二種ある。一はアジアの中部及び東部に産するもの

で、その背に二つの峰がある。他はアフリカに産するもので、背の峰は一つである。

きりんキリンはアフリカの産で、體の高さ六メートル以上に及ぶ。肢も頸も長く、舌は細長く、その先にて高き樹木の新芽を巻取りて食カする。

ゐカのしカは頭に角を生ぜず。胃は單一で反芻せず。牙が長い。ぶたブタはゐカのしカの飼養によつて變化したものである。

(4)象、前肢後肢共に五本の趾がある。各趾が蹄を有し、蹄をつけて歩む。皮膚は厚く毛が少い。鼻は長く伸び、呼吸の嗅覺を司カる外に、運動自在で手の如き用をカなし、地上の物を拾ふ。そこで長鼻類カと稱せらる。牙は上顎に生ぜる門歯で、犬歯がない、下顎には前歯がない。印度象は額平に耳は小さい。よく人に刷れるから種々の勞役カに使用せられ、又各種の藝を仕込まれる。アフリカ象はアフリカの中部に棲む。額圓く膨れ、耳極めて大である。象牙を採るために獵せられるのみで、人には刷れぬ。

(5)鯨類は魚のやうに紡錘形で、前肢は鳍狀をなし、後

肢がない。尾は大にして水平に廣がつてゐる。一般に脊鳍もある。皮膚に殆ど毛がない。鼻孔は頭上にあつて所謂潮吹き孔である。鬚鯨類は齒がなくて鯨鬚のある種類である。さくくぢら、なかすくぢら、いわしくぢら、せみくぢら等の種類がある。また齒鯨類は齒のあるもので鼻孔は合一して唯一個である。まつかうくぢら、ごこうくぢら、いるか、いやち、一角等の種類がある。

(6) うさぎ鼠の類、犬齒がなく、前齒は前面のみ白色の珽瑯質で甚だ鋭く堅い物をよくかぢる。うさぎには上顎に門齒が四枚ある。のうさぎ、えちごうさぎ、えぞうさぎ、かいうさぎ等がある。上顎の門齒が二枚であるものにはりす、くまねずみ、はつかねずみ、こまねずみ、やまあらし、モルモット等である。りすは樹上に生活し、運動頗る活潑である。下顎の兩半を動かし、門齒を開閉して巧に堅果を破つて食ふ。むさびはりすに似てゐるが、四肢の間に膜があり樹間を飛ぶ。

(7) 翼手類 前肢が變形して第二乃至第五指の骨が甚だ長くなつて、體及び後肢ミ前肢ミの各指間ミに膜が張つて

翼ミなつてゐる。胸骨には翼を動かす胸筋の附著點たる龍骨部がある。かうもりは小形で夜間飛び、昆蟲を常食ミする。吻は短く拇指のみに鈎爪がある。樹のうろなきに隠れてゐる。

(8) 食蟲類、はりねずみ、もぐら、やまもぐら、かはねずみの類である。もぐらは地中に棲んで蟲類を食する。はりねずみは背部の全面より短き棘を生じ、敵に遭へば身を縮め棘を外に向けて球形ミなる。

(9) カンガル、はオーストラリヤに産する。前肢は小さく、後肢は大で、尾が長い。後肢ミ尾ミのみで直立して跳歩く。雌には腹の前面に袋があり、幼兒をその中に入れて育てるものである。

三

獸類ミ同じく鳥類についても觀察させ、繪にかゝせ、厚紙で切らせる等の作業をさせるがよい。

(1) わし、たか、ミビは鳥獸等の動物を捕へてその肉を食する。嘴爪ミも鋭くして鈎の如くに曲つてゐる。何れも翼の力強く飛ぶこゝしが巧で、且視力が強い。従つてよく

餌となる鳥獸を捕へ得る。

(2) ふくろふ、みみづくは嘴ミ爪ミの形状が稍々たかに似てゐる。眼は他の鳥類ミ異なり、大きく圓形をなして前に向ふ。晝間は物を見るこゝ能はず樹の洞等の内に隠れて出ない。夜になるミ始めて飛出で、鼠かへる等を捕へて食ふ。羽毛の色著しからず、且翼の羽毛柔かにして飛ぶこゝ音を生ずるこゝなく、夜間小動物に近づき、これを捕へるに適するものである。

(3) きつ、つきの脚の趾二本は前に向ひ、二本は後に向ふ。樹木の幹をよぢのぼるこゝが甚だ巧である。嘴は長く眞直で、先端鋭くこれを用ひて樹に孔を穿ち中にゐる蟲類を捕へて食ふ。舌は極めて長く末端には後に向へる鈎があるから、深き孔の底にゐる蟲を捕へるに便である。尾の羽毛は軸堅くしてその端が針の如くに尖つてゐる、きつ、つきが直立せる樹幹に止まるこゝき、この尾を樹皮の表面に當て以て體を支へるのである。

(4) ほこぎ、きぎす、脚の趾は二本前に向ひ、二本後に向ふ。嘴は長からず、その端が少し曲つてゐる。尾の羽毛の軸は

堅くない。他の鳥の巢に卵を一箇づゝ生み入れて置く奇性がある。あうむは熱帯産で嘴は鈎狀に曲り、舌は肉質で太く巧に人語をまねる。

(5) 小鳥類、すゞめ、つばめ等の如き小鳥類にはうぐひす、ひばり、めじろ、ほゞじろ、やまがら、カナリヤ、こがら、ひがら、四十雀、五十雀、せきれい、みそさゞい、かはせみ、いすか、つぐみ、からす、もす、なご種類が甚だ多い。すゞめの如く穀類を啄むものでは嘴が太く、つばめの如く蟲類を食するものでは嘴が小さい。多くは巢を造るこゝが巧で雌雄共に雛を育てる。美しき聲に囀るものが多い、うぐひす、めじろ、カナリヤ、四十雀、山雀等、種類が多い。

(6) はこ、よく人に馴れる。親鳥はその餌糞より乳の如きものを出して雛を育てる。いへばこ、かはらばこ、傳書鳩、きじ、はこ、あをばこ、しらこばこ等がある。

(7) にはりり、きじ、くじやく類、脚強く常に地上を歩む。飛ぶこゝは巧でない。雌ミ雄ミは形状又は色を異にし、雄の脚には趾よりも上の方にけづめミ稱する一本の爪があ

る。くじやくの雄は時々其美しき尾の羽毛を扇の如く開く。

(8) つる、さぎ類 共に水邊に棲み、淺き水底を歩みて魚類等をさがし食ふ。嘴、頸、脚にも細長くしてかゝる生活をなすに適する。丹頂ミ稱するつるは體白く翼の後端のみ黒色で、頭の頂は赤く頗る美麗である。まなつる、なべづる、あねはづる、くろづる、そでくろづる、こふのこり等がある。みやこざり、くいなもこの類である。しらすぎの糞毛ミ稱する羽毛は裝飾に用ひられる。

(9) 水鳥。がん、かも、あひる、かもめ、おしどり等の水鳥は、趾の間に蹼を具へよく水を泳ぐ。あひるはかもを飼馴したもので飛ぶこぎが出来ないが、がん、かも、かもめ等はよく飛ぶ。

(10) かいつぶりは巧に水中を潜つて魚を捕へて食ふ。趾扁たくして水をかくに適してゐる。翼は短くして遠く飛ぶこぎが出来ない。

(11) だてうはアフリカに産する大なる鳥で、高さ二メートル以上にも及ぶ。翼は小にして飛ぶこぎが出来ない。脚は強大で、馬の如く疾走する。脚には二本の趾がある。

四

お魚屋遊びをなすためおさかな屋の店を見學させまた標本繪畫等によつて描しめて魚類を作らしめるもよい。勿論えび、かに、たこ、いかなごもはまぐり、あさりなごも觀察製作させるのである。魚類さか軟體動物さかまた節足動物さか分類的な事項に拘泥する必要がない。幼児が日常觀察してゐる觀念の發表でよいしまた概念を構成するのではなく觀念を明白になすこゝで満足すべきこゝで勿論である。

また八百屋遊びをなすために青物市場なり八百屋の店を觀察していろ／＼の野菜類や果物類の觀念を明白になすこゝも面白い。にんじん、ごぼう、大根、蓮根、くわる、いも、みつば、せり、キャベツ、菜類、ねぎ等の野菜類は勿論りんご、みかん、かき等の果物をも成るべく多く觀察させて八百屋ごつこの材料を製作させるがよい。その他いろ／＼幼児の好む遊を總合的に行はしめるため呉服屋でも荒物屋でもまた家具店でも日常品を觀察せしめてその觀念を明白ならしめ之を描き作製して一層觀察を作業化し手技化するこゝが肝要である。

御正月の保育衛生

三四

醫學博士 廣 瀨 興

新しい年を迎ふるこゝは幼児にまつて、大なる慶びであり、且つ又、心の大なる變化であらう。この機會を利用して、衛生上の良い習慣を助長し、悪習慣の矯正に努めるのが、この月の保育衛生の祕結である。幼児は年の始めは新しい氣分となつて何にか良いこゝをしたいと云ふ希望を持つてゐるものであるから、この機會に教へ導くこゝは比較的易く、他の時期に容易に出來ざるこゝが案外に可能なるこゝがある。

朝起き、早寝、齒みがき、含嗽、手洗、戸外の運動、薄着等いろいろの習慣があるが、殊に家庭で最も困難なる偏食の矯正も、新年のお雑煮の獻立から斷然改革をした賢明の母親の例を知つてゐる。肉や、各種の野菜の添へられた軟い雑煮餅は榮養に富み、消化もよろしい。その與へ方に

よつて、肉を嫌ふもの、或は野菜を嫌ふもの等いつれの型の偏食の矯正に對しても適當の場合である。幼稚園、託兒所を通じて幼児の虛弱の原因を爲す最大の原因の偏食を矯正し得る好機會である。

併し、又一方から云へば年の始めは所謂御正月で夜ふかし、朝寝或は間食の悪習慣もつき易い時である。喰べ過ぎのために胃腸をそこなふものゝ多いのもこの時期である。

又この時期は戸外の運動が少く、多くは室内にて遊ぶために不潔の空氣を呼吸し、咽喉カタル、氣管枝カタル等の呼吸器を害するこゝが多い。特に暖房の設備に注意し、室内空氣の良否のみならず温度、濕度、通風に留意せねばならない。

暖房装置はステイムか電氣ストーブなれば理想的であるが一般には望めないことであるから、やはり、炭火、煉炭、石炭を利用せねばなるまい。炭火はよく室外であらかじめ充分に火熱しおけば有毒なる一酸化炭素は生じない云はれてゐるが實際は然からずして却つて餘り火熱せざる時より多く發生する云ふことが近頃、實驗的に證明されてゐる。煉炭ストーブも同様煙突を設けねば不衛生である。煙突なしにて完全燃焼すも廣告せるものもよく専門家の意見を聞かねば危険である。又、ガスストーブは多くは煙突なきため、往々一酸化炭素中毒を起す例が多い。石油ストーブも同様である。

炭火の中毒は其燃焼に際して一酸化炭素を發生するためでこの一酸化炭素が肺内に吸入せらるゝ血液の中のヘモグロビンが吸氣中の酸素と結合するよりも一酸化炭素と結合する方が速かに強く(約其百五十四倍の親和力を有す)、酸素を血液中に供給せしめる餘地を許さず、従つて組織の酸素缺乏を來し眞の呼吸に障礙を生ぜしめるためである。炭火は眞紅に熱せられたる時の方が、却つて一酸化炭素の發

生火であること、及び、日本婦人が室内にて僅少づゝでも常に炭火に接して慢性の中毒を來し、貧血、神經衰弱、ヒステリーの誘因を爲してゐることは一般に注意すべきことである。殊に小兒の如く身體幼弱のものに知らず知らずの中に悪影響のあるは當然である。

然し、日本家屋なれば炭火の火鉢を用ゆる場合は必ず通風をよくして室内の換氣に注意すればよろしい。コークス、煉炭のストーブは煙の少い點、取扱の便なるためによりしきも塵埃の立ち易いのが缺點である。薪ストーブは取扱の不便を除けば最適である。

室内の溫度に付いては室の所用目的、作業の種類、個人の體質習慣に依つて異なる。吾々は恒温動物であつて、恒に攝氏三十七度を保持せねば生存し得ない。従つて周圍の氣溫の變化に依つて體溫を調節せねばならない。而して産熱と放熱との兩作用の適度によつて鬱熱状態を防止してゐるのである。

室の適溫は學者の研究によつて大體次の如くであるが猶この他に必要缺くべからざる條件を要するのである。

居住、學校等 六四乃至六八度(二八乃至二〇度)

講堂、集會場等 六一乃至六四度(二六乃至一八度)

寢室 五四乃至五九度(二二乃至一五度)

病室 七二度 (二二度)

浴室 六八乃至七二度(二〇乃至二二度)

輕勞働に従事する場合

六一乃至六四度(二六乃至一八度)

重勞働に従事する場合、體操物

五〇乃至五九度(二〇乃至一五度)

外出服著用の場合、停車場、寺院等

五〇乃至五九度(二〇乃至一五度)

室内の保健に就いては温度及空氣の良否のみならず、

否、却つて一層重要な條件は、湿度の問題である。室内

の温度が過度に上昇せる際温度が上昇しても又反對に下降

し乾燥しても種々の障碍を招來するであらう。過度に湿度

上昇すれば體內よりの熱放散作用は妨げられ鬱熱のため胃

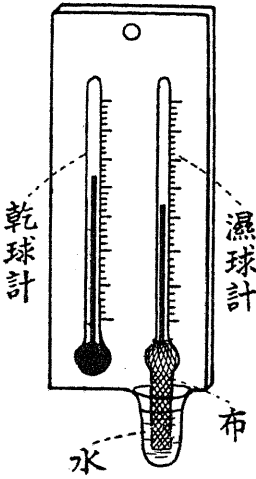
腸障碍を來す。従來、肺炎等の看護の際、室内の温度上昇

し居るにも拘らず洗面器を火鉢の上にて火熱し蒸氣を過度に發生せしめることは却つて經過を悪化せしめる恐れあり近來は吸入のみ行ひ却つて一時窓を開放し外氣療法を試み、治療率を高めつゝあり。

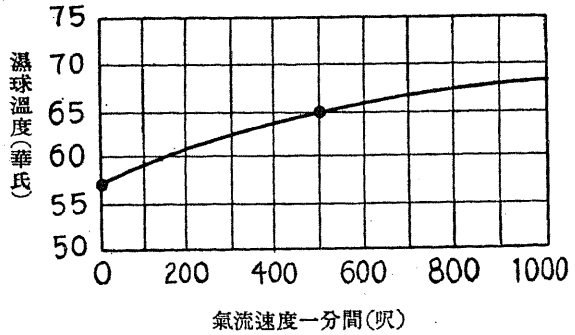
室内空氣が過度に乾燥すれば反對に呼吸器粘膜にカタル、腫脹を來し、感冒、氣管枝カタルの原因となる。殊に冬期の室内は暖房のため塵埃夥しく一層不衛生である。又冬期に於ては室内と戶外との温度、湿度の差甚しきため急に室外に出るために感冒に侵さるゝことあり。殊にこの點幼児に注意が肝要である。

室内湿度の適不適はその室温と通風の如何に關係あるもので、湿度高くも室温低ければ良く、高濕、高温が最も不適である。温度一定すれば湿度高くも充分通風(氣流)よろしければ凌ぎ良し。普通この三者の最適の條件の時を快感點と云ひ、これを測るに湿度計(一具約一圓五十錢)を用ゆ。即ち左圖の如き寒暖計の濕球計の度目を讀み、室内無風(病室の如き)の時は濕球計華氏五十六度が最も良し、若し湿度上昇し同六十五度となれば通風一分間に五百呎風速を必

湿度計



快感濕球温度と氣流速度の關係



要するるのである。
 斯く室内の最適條件は温度、湿度、氣流の三つを按配せねばならぬ故、一般に湿度計を設備し前述の如く濕球計五十六度乃至六十五度の範圍内に調節する

を可さず。以上は御正月に於ける幼児保育上必要な一般的衛生を述べたものである。

冬の幼稚園

- 一、お部屋の温度は適當ですか。
- 一、湿度はどうです。かわき過ぎてゐませんか。
- 一、換氣はよくいつてゐますか。殊に炭火を用ゐてゐるところでは、よく氣をつけませう。
- 一、子どもはぬれた靴下や足袋のまゝゐないでせうね。
- 一、お辨當の御飯は冷くありませんか。
- 一、来た時お歸りの時のうがひ。
- 一、悪い感冒がはやる。マスクを忘れずに。
- 一、寒さに怖れてばかりゐずに、日光、日光、日光。

のし(熨斗)の今昔

岡崎 常太郎

(カナ遣は文部省臨時國語調査會案に據る)

のしには色々ありますが、そのもこはアワビの肉をのばして造つたものであります。昔は生きたアワビをそのまゝ神様にお供へして居たのですが、それが後になつて干したアワビにかわりました。ホシアワビは肉を貝殻から取離して乾したものでありますから、ミトリアワビ(身取鮑)こも申して、それを神様に献上して居たのであります。そのホシアワビが又後になつてノシアワビにかつたのであります。ノシアワビ即ちアワビノシは御婚禮なごのためでたい時に用いられ、だんくき、一般の祝儀に用いられる様になつたものと思われれます。

初めはまるもこ用いて居たアワビの肉を何故伸ばして用いる様になつたかこ申します。食へるには勿論生なもの

が最もよいわけですが、腐り易くて運搬に不便でありますから、重い殻を取り去り、中身を乾して取扱に便利にしたのであります。幸にして神様は干からびになつたのはいやだこは仰せられませんから安心ですが、何しろアワビの肉を乾したものは、餘り美しい色でもなく、かつこうもまずくて、サツマイモの輪切を串にさしたのよりも、はるかに見苦しいのであります。それに厚ぼつたい肉の塊は乾すのに手間取るのみならず、面積が狭くて小さく見えますから、うんこ引きのばして手ばやく乾した上に、廣く大きくしようこ云ふ希望からノシアワビを造る様になつたのではありますまいか。さてノシはのすここ、のばすここで、短いものを長くするここであり、低いものを高くし、貧しい

ものを富ますこゝで、且又命をのばす云ふ意味にも
なります。打出の小槌がなくても一寸法師が大男になり、
素寒貧が大分限者になり、おまけにお役が昇つて、その上
に長命をする云うのですから、何さすばらしいではありませんか。
ノシにはこの様な有りがたい意味が含蓄されて
居ますから、人様の幸運を祈る意味に於て、ごんな贈物で
もお供をして行くこゝになつたのでありましょう。

元來ノシアワビは小つばけな紙片なごに包み得るもので
はありませんが、何時の頃よりかツ、ミノシ(包み鬘斗)ミ
云うものが生れて來ました。この時代になるごさすがにの
しやばつてゐたノシも誠に小さくなつて、甚しいのになる
ご、包紙の合せ目にちよこんご頭を出して居るに過ぎない
ものさえ出來て來た。

ツ、ミノシ(包鬘斗)は伸したアワビを紙に包んだもので
ありますから、アワビが本體で紙は風袋であります、だ
ん／＼風袋の方が勢力を得る様になつて、遂にオリノシ
(折鬘斗)云ふものに變りました。オリノシは初の間は大
形の切鬘斗を折りたゞんだ紙に包んで、その上に水引をか

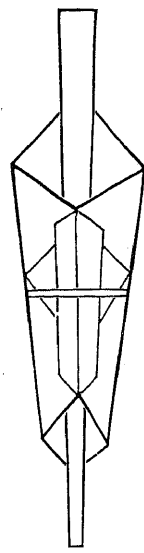
けて居たのですが、キリノシも折紙もだん／＼に小さくな
り、殊に包まれる切ノシが非常に小さくなつて、僅に折紙
の合せ目にちよこんご頭を出して居るに過ぎないものさえ
出來て來ました。しかしたごえ小さくごもアワビの正體な
る切ノシが残つて居り、又折紙は本式の檀紙から西洋紙に
變つても、やはり折紙は折紙として切ノシを包んで居たの
であります、それが次第に變化して、遂に切ノシは全く
ノックアウトされて、その代り黄色に染めた色紙が後釜を
占領する様になりました。かくの如くしてノシは人の心の
うつるがまゝに、終には木版印刷の色刷にその形骸をミ
めるごごごなり、更に一步進んで今やまさに簡單なるのし
の一筆に榮華の跡をミゞめんとして居る有様であります。

ノシの變遷何ご面白くはありませんか。そうしてノシ
の歴史を知る事は同時に我々民族の歴史を知るものではあ
りますまいか。

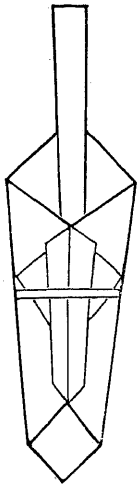
鬘斗と幼児の生活と如何なる聯關を持つて居るか、私には全く
分りません。しかし保姆の方々に相當に興味あるべき材料では
ないかと思ひましたので、少しばかり書いて見ました。もとより

折 熨 斗

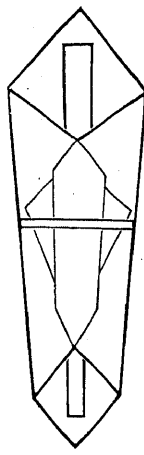
洋紙紅白



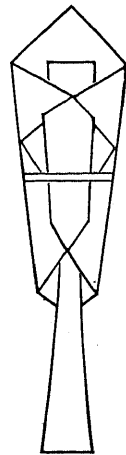
日本紙紅白



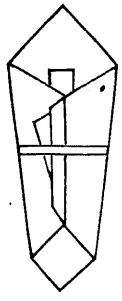
洋紙紅白(檀紙擬)



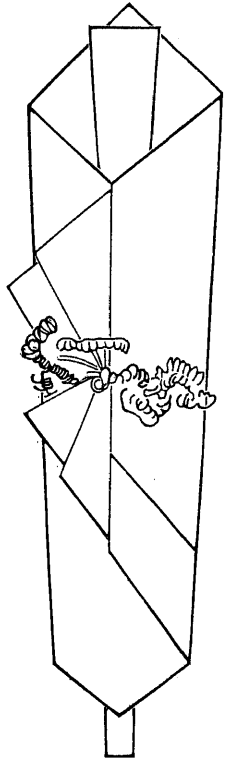
洋紙(のしハ紙製)



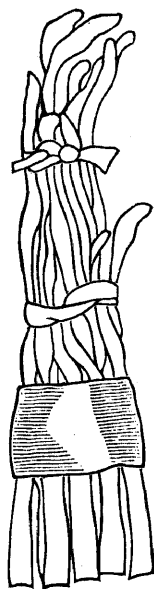
艶紙金刷(熨斗ハ紙ヲ貼ル)



檀紙紅白(本式)



大熨斗(賢所奉獻)

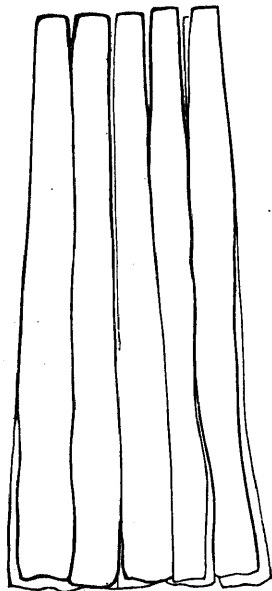


上部

矢倉介類叢話所載

私が専門にしらべて居るのではありません。矢倉さんの介類叢話を参考として書いたのでありますから、興味をもたれるお方は同書を御覧になれば詳しい事が分ります。

人には蒐集本能があります。あまり大きな物かさばる物は土蔵を持つて居ない私どもには集めることは出来ませんが、ノシは左様な心配がなく、殊に興味として女子の方々が扱うのに恰好な材料ではないでしょうか。昔からの變遷、種々の形、色々の色、大きさ、折り方、材料の質、使用の方法その他、そうして集めつゝ、幼児との何等かの關係を見出して頂けば甚だ結構に存じます。



下部

兒童に繪を教へるには

西澤 笛 畝

四二

有名な有馬温泉 その御土産として名高い有馬筆云ふものがある、五色の絲に軸を巻き飾つて見るからに、美しく、優雅な筆である、面白いことには、この筆はいざ字をかこふさして、手にこり上げる軸の末端にひよこり、ミ巧みに刻んだ美しい人形が飛出して、全く興味深いものである。

その仕掛けは一本のすが絲、小さい鉛のかたまりの上下によつて、出たり引つ込んだりするだけのことである、併し字でもかこふ云ふ兒童にさつては、このさゝいもの仕掛けが充分の興味をもたらして、不知くの間手に習ひをするこゝになる。

この不思議の動らきをする人形筆の起りが又面白い、それは昔々藩主の若君が何んさしても習字を嫌つて近習達を

こまらした時、家老某は極めて智者であつた丈けに、早速の妙案は習字の場合の興味云ふ處に着眼して、この筆が生れ出たさ傳へている。

成程机に向つて、筆を取る、ひよこり飛び出す人形の動らきは、若様の心をよろこばしたに違ひはない、興味があれば自然さ上達する、上達するから興味が一層に出てくる。

かくして若様は馬鹿様にならずに濟んだ謂である、物に對しての應用こそ實に必要な問題である、私が、ラジオでクレヨン畫の描方を放送した時に各所から色々さ感謝の手紙が手元に届いた、その中で面白いものを参考に一つあけて見る。

前略、私娘學校にて圖畫の成績思はしからず、當人も一向に氣乗りいたさず、歸校後家庭に於て、何にかさ心を用

ひ居れども少しも影響なく、活潑は申せ運動にのみ興味をもち居り候處、今回先生の放送によるラジオの描方のテキスト一部相もごめ日々家人も共々練習いたした處、牛に引かれての諺通り、常人も何んさなく、面白く感じたか一日ミ力を入れる様に相成り、十日間練習いたした候、此分にては段々、繪の趣味も理解いたし成績も多少、變化いたすこまごま存し候、結局は、練習上の興味が、かゝる結果を生み候事と厚く御禮申上候早々。

こんな文面である、總て兒童に物を覚えさせようとする上には無理があつては、効果がないのである、自然と興味を感じる様に筋道をつけて、引張り込む云ふ事が肝要である。悪い事も習慣から起るが、善い事を會得させるにも、唯一圖に覚えさせ様とすれば却つて反對の結果を生じて成績をあける事も出来ないのである、前に述べた、習字を好まぬ若様の爲めに作り出されたミ稱する有馬筆の例もこの意味に於て等閑に附すこまは出来もしないし、又考ふ可き點であると思ふ。

大人でも同じではあるが、兒童に於ては尙更、無理では

いけないと思ふ、不知の間にこんな事でも呑込む様に順序をつける事が大切である。

それから、繪を描く場合としては、畫材の選擇と云ふ事である、この材料の如何か結局は興味を持つたかたぬかの分れ目となるから男女に由つて、區別するこま、時代的な材料の取入れと云ふ大きな問題が、この場合可成り大きな役目をするものである。

先般の放送後、其の作家の結果を募集して集まつた者を見た時成る程さうなつかれたものである。それはこふである、男の兒が軍人を好み飛行機を描くのは何んの不思議もないが、女の兒が軍人をかき飛行機や軍艦をかくと云ふ傾向である、非常時日本さしてかくある可きではあるが、繪畫上に時代精神を然も子供自體が織込むと云ふ點は、餘程注意す可き處でもあり、又繪畫によつて兒童達の精神を判斷し得ると云ふ事が實際輕々に見のがせぬ處である。

精神教育をほごす上に於て、萬言を費やすよりも、應用の方法によつては、繪畫を利用しての、自然的な會得こそ、意外の効果があると思ふのである。そこで話しは前に

もぎるが、如何にしたら兒童は繪畫に興味を持つか云ふ點である。多數の子供達の中には繪なき描く事を好まぬ者もある事は事實である、そこに興味的の習得法を研究して優雅なる美育を施す事は、教育者としても割合に幼童に對して便法である云私は思つてゐる。

幼い時に覺えた事は一生を通して影の如くに浮び出てくるものである、東洋の美術國日本、その國に生れ出づる人が自然に其素質を保持してゐることは事實であるが、これに磨きを掛ける必要は云ふ迄もないと思ふ。

今喧ましい思想問題なごも、こうした美術應用の教育法に由つて随分ごやはらげられるごごも、いつも私は考へてゐる。

それご繪畫趣味の保持ご云ふごごは、一家をなした時即ち活動期に入つては尙更色々に應用せられて、随分ご有益である。囁るご云ふのでもない派手にするご云ふのでもなく自己の服裝等を整へる場合にしても、質素な中にも一つの調和を示して其人の人格を思はせるのも全くこの美術趣味から生れてくるご思はれる。

こんな風に論じて見るご、繪畫趣味の教養が如何に必要であるか云ふごごも、判然ごしてくるのである。そこで、この繪畫教導の上に私ごしての希望が出てくる、それは今日迄に色々ご經驗して見た結果は、次の様に記述するより外は今の處ないかご思ふのである。是れを參考ごして、尙色々ごよい考へが浮ぶならば、實に結構なごごである。

『一、自由畫の面白さは我々繪畫を専門的に研究してゐる者から見ても實際感心させられて随分ご参考になる點が多いのである。拘束ない天地に思切つた描方をする兒童の手先から生れ出る、不思議な力を持つ繪畫表現、これは全く模倣しようご、しても容易ではなし、特に作り出さうごしても、中々出來難い至寶であるかも知れないが、その不可思議な興味的表現を我々は讚歎計りして見てはられないのである。恰度、大人の世界でも同じであるが、何んの仕事にしても餘りに自由である結果は最初は面白いが、終局の結果は却つて、さうにもならない様になるのが普通である。そこに一つの標準があり規定があつて、後にその型を破つて然も動かすごごの出來難い、寸法には少しはまらない

でもをかしくない仕事のあらはれ、即ち古人の云ふ法あつて後に法なしの自由に到着しなければ、眞の力まはいへないのである、稀に一人の天才が軌道を外にしての異様な結果を見せることが、あつたましても、これを以て全般に當はめることは決して出来ないものである。』

『二、こゝに私の申上様とする要點が産れてくるのである。つまり随分正確な手本を示しても兒童は兒童らしい觀察表現しか出来難いものである、一つの行ひにしても、可成りよいこゝを見て見せても、悪い方へ走りやすいのが、兒童としての常である。そこで最初から餘りにも自由的な描法による指導を以てすれば、最後の結果たるや、抜き差しの出来難い者になつて、其兒童の損失は全く幾何であるか判らない、可成りに正確な手本を選び與へなければならぬ點はこれを以て見ても明らかである、正確なる者を以てして尙、そこに自由さを多分に盛り込むのが兒童の常であることは繰返す迄もない事である。』

頑迷に拘束的な教導を繪畫指南の上に加へ様とするものではない、兒童が興味を失はない程度に於てこの大切な

方針を應用し利用して、繪畫教育を施すならば必ずや得る處の大にして兒童の幸福を増進し國家社會を益する事の大なるは云ふ迄もないことである。』

私は單に我田引水的に繪畫道の獎勵をなすものではなく他の修養と共に東洋獨特の美術趣味殊にその原因をなす處の繪畫の指導法に對して、これだけの要領を基礎として進むならば、随分兒童の幸福を増進し得ると思ふからである。

描方に使用する材料はクレヨンでも日本畫の材料の墨や筆でも何んでも私はよいと思ふ。

可成便利な材料安價な品を選ぶことは色々な方面から見ても當然である、唯これを如何に運用して教導するかの是非である。郊外に新鮮の空氣を吸ひながら自然を寫生せしめて自由的な繪畫を作らせる、事も結構であるが、その行動をなさしむる以前に於て基礎的に自然の視方即ち構圖法に材料(クレヨン)か筆墨鉛筆等の驅使の方法を充分に會得せしめて置くことが何によりである。

其上に於て極めて自由なる拘束なき繪畫修得をなさしむ

るこそ前述の要點に合致するものである。私は思ふのである。

單に自由を目標として少しも、指導上にその示す處のない事は兒童の心に不安をもたしめて實は、よい結果を出し得ないのである。兒童には兒童相當の仕事の上に自信を抱懐せしむることが大切なことである、殊更繪畫描寫の上に

關西聯合保育會の建議

昨年十一月神戸市に開催せられた第四十回關西聯合保育會に於て左の建議を文部大臣に電送した

建議

今回ノ學制改革ヲ機會ニ女子師範學校ニ保姆養成科ヲ、師範學校ニ幼稚園ヲ附設セラレシコトヲ本會ノ決議ニヨリ建議ス尙ほまた次の建議をなし、代表委員として安井八十二、山崎ときの、鹽見タキエ、望月クニの四氏特に上京、文部省を訪問し、主腦部各官に面會、建議の趣旨につき詳細説明して、その徹底につとめられた。

建議

昭和八年十一月五日神戸市ニ於テ本會主催ノ下ニ第四十回關西聯合保育會ヲ開催シタル所各地ヨリ幼稚園長保姆並ニ幼兒教育關係者等一千二百五十二名參集シテ慎重審議左記事項ヲ

は何によりも大切なこと云ふ可きである、無圖かしいことが窮屈さかいつて餘りにも放任的な態度によつて指導することは、そんな者であらうか、私は教育者ではない、單に一美術家として繪畫教育の上に、殊に兒童に繪畫の道を教ゆる上に於てかく考へたのである。

(昭和八年十二月六日夜)

決議致シマシタ、就テハ何卒決議ノ主旨ヲ御採擇相成リマス
ル様右建議致シマス

昭和八年十二月十日

關西聯合保育會代表
神戸市保育會長 黒瀬 弘 志

文部大臣 鳩山 一 郎 殿

記

幼稚園保姆ノ資格向上並ニ待遇改善ニ關シ左記事項ヲ速ニ實施セラレタシ

一、幼稚園保姆ノ教養程度ヲ小學校本科正教員ト同等以上ヲラシムルコト

二、幼稚園長及保姆ヲ視學等ニ任用スルノ途ヲ開クコト

三、幼稚園長及保姆ノ若干數ヲ委任待遇トナスノ途ヲ開クコト

四、幼稚園保姆ノ月俸額ヲ小學校本科正教員ニ準セシムルコト

五、幼稚園長及保姆ニ對シ年功加俸ヲ給スルコト

成年に因んで犬の童謡を語る

葛原しげる

昭和九年は成年です。犬は、まことに可愛くて、元氣です。時に、いたづらで、又勇猛です。多くの家畜の中で、何よりも、ニコ／＼ピン／＼の氣分が豊かです。それに、偶然にして、私も、實は成年ですから犬の玩具が、次々に集まりました、コドモの様に悦んでゐます。今年は私の年をこして何となく嬉しい氣持がします。それで、今までの拙作の中から、犬の童謡を集めて反誦してみる事にしました。今、幼稚園や、小學低學年のお子さんの中には、生憎、成年の方は無いのが、つまらなく感ぜられますけれど、しかし、何のお子さんも、犬は、ちんころは、ボチは、お好きなんですから、御利用下さい。二十數年前、コドモ雜誌の表紙や口繪にコドモをかいて貰ふ時、畫家によく犬を配する事を求めましたが、それは、参考に集めておいた我國の

童畫に、非常に多く犬が配せられてをり、その必要である事を感じたからです。私が、もし、幼稚園長さんだつたら、兎と共に、鳩と共に、犬を飼ひたいと思ひます。

ところで、犬も、一番可愛いののは、小さい犬です。「ちんころ」です。すべて小さいものゝ可愛さは、また其の美しさは、望遠鏡で擴大して近く見るよりは、望遠鏡を逆にして、縮小して遠く見る時の方が、すつかり美しく見えるのと同じく、誰にもある感じですから、小さい形の玩具が、大きな坊ちゃんたち——犬ももの間にも、非常に歡迎せられる所以でもありませんが、私は、十數年前、此の意味で、擬聲も擬態もつかぬ「ちんころちん」の類を多くしたのも、のしました。

小犬

弘田龍太郎氏曲

一、ちんく、ころく、ちんころちん

お鈴が ちんく、ちんころちん

首輪の小鈴も、をぶつてる

可愛い、小犬 ちんころちん

ちんく、ころく、ちんころちん

二、ちんく、ころく、ちんころちん

小犬 ちんく、ちんころちん

ころける様に、みんなできて

ぢやれつく、吠えつく、ちんころちん

ちんく、ころく、ちんころちん

三、ちんく、ころく、ちんころちん

小鈴は ちんく、ちんころちん

切れて、ミびそに、ふるしつぽ

しつぽに、鈴つけよ、ちんころちん

ちんく、ころく、ちんころちん

(童謡唱歌名曲全集—2)

小犬ミはいへ、犬の首に鈴をつけるなんて、憤慨する坊ちゃんも有りさうですが、かの小形の犬の「ちん」には、よく鈴をつけて飼つてゐる婦人さへあります。「ちん」でなくとも、小犬には、鈴をつけたいものです。小さい時には、人間にミつては、犬であつても、猫であつても、小さくさへあれば、可愛がる対象物ミして、苦状はないのです。少々大きくなるにつれて、犬は犬、猫は猫ミ、區別されるこミ、幼児期には、男女の生別が、判然しないのに似てゐませんか。

そして、あんまり善く振られる尾に、鈴をつけよ、ミは、物好きですが、全く以て、さうしたら、よく鈴が、鳴る事せう。ちろろく、ちんちろろミ、ひつきりなしに。

次のは、幼児ミ犬ミの交渉に、意外な不調和のある残念さです。可愛がられるミ、つけ上るのは、猫ばかりではありません。物はほぎく、にしないミ、なきミ、修身めきますが、これは事實を描寫したに過ぎません。

ビスケット

ワン ワン ワン

それ一つ ビスケット

尾を振り尾を振り たべました

ワン ワン ワン

それ そーれ ビスケット

いくつでもく たべました

ワン ワン ワン

もうないよ ビスケット

いつまでもく ほえました

ワン ワン ワン

まだ ほしい ビスケット

叩くまねして 追ひました

ワン ワン ワン

しつ しつ しつ もつ

けるまねしたつてにけませぬ

ワン ワン ワン

やだ いやだ いやだよこ

弟は にけて ゆきました

『桂花集』さいふのは、戸澤子爵夫人の和歌集ですが、この中には、犬の歌が幾首かあります。そして、この歌集中の歌には、童心豊かなものが多いので、この全評の時、私は、この事に中心をおいて「心の花」に感想を寄せておきました。

子を生みて心やすげに尾をふりつゝ芝生

ゆく犬にふみ涙おつ

父無き子五つかゝへて大いなる責をぞお

へるあはれ母犬

寂しやこ悲しき聲になきたてゝ母よぶら
しも何處にか行きし

これは三首とも嚴肅でありますが、

あわたしうあられ降りくれば幼な兒は

小犬かゝへて庭より歸りく

犬も猿もあうむも千らに引きそひてこの

新家に住まひそめたり

犬の飯拾ひに出でし子鼠のさぞや明日よ

り噪ぐなるべし

この最後のは「子鼠左様なら引越すよ」といふ童謡にして
みましたが、最も、子犬らしいのは

誰が犬ぞ人ちがへしてつき来るよ夏まだ

あさき若楓道

の一首です。全く、迷ひ子の犬ミ小さいのほご、人さへ
見れば、自分に好意を有つてゐてくれる事を知つてゐるか

の様に、なつかしげに寄つて来るのです。この信じ切つて
ゐる態度は、まごに、人間世界にも、幼兒にのみある事
で、よく似たものではありませんか。

ついて来る小犬

僕を 誰かミ

まちがへて

小さな犬が ついて来る

朝霧ふかい垣根みち

僕が こまれば

すぐ こまり

歩き出したら ついて来る

可愛いゝ犬はきこの犬

若楓であらうミ、燃える様に紅葉した楓であらうミ、時
季には無關係に、小犬は、ついて来るのです。大きい親
犬なきに後をつけられるのは無氣味で困りますが、小犬で

さへあれば、無氣味どころか、私共は悦んでしまふのでした。次の一篇も、佛蘭西の童謡の意譯です。

よその小犬

フランスの曲

お家の御門で　まごこの犬が

かはいゝこゑで

ワン　ワン　ほえる

かけ出て　みるこ　小さな犬が

頭や　尻尾を　ふりながら

ぢやれ　つき　まはる（大正幼年唱歌第十一集）

犬の習性か何うかは知りませんが、小犬の癖に、一人前の心持をして、怪しの物を見れば、威厳を示して吠える小犬の、生意氣さ、今までの「クキーン、クキーン」も聞えて、いゝ優しいボチの聲は事かはり、「ワン」よりも「ウオッ」も聞えて、おごす様な底力をこめた吠え方をするのです。そして、けしからぬ事には、門前を走つた自轉車に

吠えて、飛び出たボチが、我が家の方を見て、吠えるのです。

ボチが吠えたよ

宮城道雄氏曲

もらつたばかりの

ボチが　ほえたよ

かはいゝ　こゑして

ボチがほえたよ

犬の　こゑして

ボチがほえたよ

自轉車　みては

ボチが　ほえたよ

門から　外見て

ボチ　がほえたよ

門から　内見て

ボチ　がほえたよ

（箏曲童謡第一集）

宅にも犬がゐりました。長男が、お友達の家から貰つて來たのですが、生れて間のない時に、抱いて歸つて、あんまり可愛いので姉妹たちも疊の上で遊ばせてやり、殊に、その時尋常二年であつた次男は、夏、房州へも連れてゆきさいふので、兩國驛から、箱に入れられて運ばれるのを見て、汽車が、まだ兩國驛を出発しない間にも

「ボチはどうしてる？」

と案じつづけられてゐましたが、やがて、發車するや、

「ボチも乗つて來てゐる？」。

と案じるのでした。大丈夫！と何度も謂つては、安心させてゐる中に、さこかの驛に一度止まつた汽車が、又、急に、ガタン！と踊る様に揺れて、列車内の幾人かは、窓なきで、こつこつ、こゝと鉢合せをしたりしましたので、

「ボチも、こつこつこゝをしたでせう」

と心配しましたので、

ボチの初旅

一、初めて 汽車に のせられて

ボチも お伴で ございます

それでも ボチだけ ひきりだけ

箱に おしこめられました

箱ごみ 後の貨車の中

荷物ミ一しよに行くのです

二、ビリ／＼ボーで 動く汽車

ボチは びつくりしたでせう

それでも 行李や トランクの

中でだまつて ゐるのでせう

ガタン ミ 汽車のゆれる度

頭を コツン ミ 打つてしよか

このボチは、初めて異境に迎へる第一夜第二夜を寢ませんでしたが殊に、その第一夜は、空瓶の底で啼く蟬の聲が、妙にこもつて、うなつて、ボチを、驚かせた様でした。

夜中のボチ

夜中に ボチが なき出した

泥棒が來たんぢやないんだよ

別荘の夜の二目目

ねられないから なくんだよ

ゆふべは、電燈へ こんできて

サイダの空瓶へ 入れられた

小蟬の 夜中に なくこゑが

變へんにきこえて 吠えてゐた

小犬の仕方しほうのなさは、人間の言葉を解してくれないで、時ならぬ時に、聲を立てる事でした。猿芝居と同じく、犬芝居の面白味は、このぢれつたさにもあるのです。子供に、仲間入りして、一しよに、かくれん坊をさせて貰つてゐる小犬が、小犬だからワンミ吠えて、

「仕方のないボチねえ」

ミ、小さい手で、たゞかれたでせう、次の一場面。

小犬をつれて かくれん坊

中山晋平氏曲

一、太郎は かくれて 木戸の内

みよ子は立つてる 倉の壁

太郎は しやがんだ ちどかんだ

みよ子は 目かくし 白エブロン

「もういゝかい」

「まーだよ」

二、太郎は じやれつく犬ころの

頭を なでなで しづめてる

みよ子は バタ／＼かけ出して

キヨロ／＼立つてる 倉のかぎ

「もういゝかい」

「まーだよ」

三、さうしてもしやがまぬ犬ころを

むりやり おさへて なかしたら

みよ子は きいたか きこえたか

木戸の前まで いそぎ足

「もう いゝかい」

「ワン ワン ワン」 (ビクターレコード)

畜生であるゆゑに、似た失敗は、昔から、いろいろの犬がしてゐます。中でも、イソップの話は、あまりに有名です。

よくばり犬

梁田貞氏曲

一、肉をぬすんで よろこんで

橋を わたつて かへるまき

よくばり犬はおそろいた

橋の下にも 大きな犬が

肉を くはへて にらんでゐるよ

二、あれも ぬすんだ肉だらう

うばひ取らうま 大ごゑで

一こゑ ワン ミ 吠えてみた

するま 自分の くはへた肉が

水にながれて しづんで行くよ

(大正少年唱歌第一集)

犬と猫とは、犬と猿より、もつとよき対照であり、よ

き家畜であります。そこで、男兒向には犬、女兒向には猫、

二つを組合せて幾つもあります中に、

犬と猫

小松耕輔氏曲

一、私は お家の犬ですよ

私が るないま 悪ものが

お家へ はいつてまゐります

私は お家の 忠義もの

ワン ワン 私を いつまでも

可愛がつて 下さいな

二、私は お家の猫ですよ

私がるないま、夜の間に

ねずみが出ます さわぎます

私は お家の忠義もの

ニャア ニャア 私をいつまでも

可愛がつて 下さいな

(大正幼年唱歌第四集)

ワンく、ニャオく、

宮城道雄氏曲

一、ましらい小犬がワン ワン

黒い小犬も ワン ワン

白くても

黒くても

ワン ワン

ワン ワン

一、親猫一ぴき ニヤオ ニヤオ

小猫二ひきで ニヤオ ニヤオ

おはなしを

してるのも

ニヤオ ニヤオ

ニヤオ ニヤオ

(箏曲童謡第五集)

此の後ののは、ビクターレコードに吹込まれて發賣された時も、この伴奏の卓越したる擬聲をほめて、效果的に胡弓を使驅してあるのを悦び、幾十回さもなく、演奏會では、アンコールされた曲ですが、もし、これは、先の國定教科書國語讀本卷一の挿畫からのヒントで作つたものです、白い犬と黒い犬が、何の背景もなく、かいてあります。そして、白い犬でも、黒い犬でも、さちらも、ワンワンとなく

のです。おもへば不思議です。それと同時に、猫も、親猫も子猫も何方も、ニャア／＼となくのですが、猫の言葉は、我々人間には分らないのに、猫の親子は、なきつゞけます。話しつゞけるやうに。

此うした動物のなき方の不思議は、何も、犬と猫とに限つた事ではないのですが、人間に一番親しまれ、殊に、幼児に最も仲善しであるのが犬ですから。

従つて、幼童と共にある家畜としての第一位なる犬を配して、「光」の不思議を童謡にしたものに次のがあります。

かけこかけ

一、お日様 出たよ

雲から 出たよ

皆も 出て来て ならんだよ

ボチも 上手にならんだよ

姉さんご妹ご

兄さんご弟ご

皆出て ならんだよ

お日様 ニーコニコ

二、かけ かけ 来たか

どこから来たか

姉さんの長いかけ

妹の可愛い かけ

兄さんの大きいかけ

弟の小さい かけ

ボチの短いかけ

かけ かけ ならんだ

裏の木戸

お乳屋さんの後から

お米屋さん

お米屋さんの後から

お豆腐屋さん

お豆腐屋さんの後から

洗濯屋さん

口笛ふきふき八百屋さん

開けつばなしの裏の木戸

(幼年の科擧)

宮城道雄氏曲

八百屋さんの後から

少しして

大きな おこゑの お魚屋さん

そのまた後から ぎこの犬

はいつてみたり出てもみたり

開けつばなしの裏の木戸

昭和八年十一月二十五日、東京の神宮外苑にある日本青年館で初演奏された童謡の一つに次のがあります。この歌詞の内容の面白味は、犬にある事が、幼童には分りにくいと思えます。却つて、いろ／＼の御用聞が出たり入つたりする事の方が、幼童には、面白がられませう。しかし、この犬が登場する爲に、全體の印象が更に活々して来る事は申すまでもありません。

生まれ、犬は、幼童といはず、コドモの世界を、明るくも、嬉しくするものでした。戊年の今年です、さうぞ、犬といふ犬がどこでも、幸でありますやうに、そして私にも、もつと善い「犬」の童謡が生れますやうに。(八、一一、三)

幼児の服装について

東京女子高等師範學校教授

成 田 順

生れて滿一歲位迄を嬰兒期と申しそれより小學校に行くまで幼稚園時代を幼兒期とし此時代の服装について考ふる所を述べて見たいと思ひます。

嬰兒期は申す迄もなく身體の保護を主として服装を考へねばなりません。幼兒期に至つては身體の保護と同時に動作の上からも注意した服でなければなりません。又幼兒の心理的方面からも顧慮してほしいのであります。近來子供服については漸次考へられて來たやうにも思はれるが一般的にはまだく注意すべき點があるやうに思はれます。

地質・色・柄について

身體の保護の上からは輕くて柔いものがよい。さうして子供のこゝであるから相當汚すものとして洗濯のきく地質クリーニングの出来るものでなければならぬ。此點から夏

はギンガム・ポプリン・トブラルコ等がよろしく、冬はサーヂ・メルトン・薄手の柔かな毛織物なら適當であります。最近賣出されて居るチャージの類は子供服の地質として恰好のものと思へます。ベルベット(ビロード)は品位のある布ではあるが其手入れ保存は他のものに比し稍々面倒であるし、價格の點からも一般向ではない。色・柄についてはあまり美しく過ぎて子供の顔まげがしないもの、その服を着せるこゝこゝなく活々として元氣さうに見えるもの、又柄が大きすぎては小さい體に調和しないから小柄な全體として目障りにならぬ上品な物を選んでほしいのであります。從來の和服の柄は子供には大きい柄大人には細かいものといふ頭があるので、洋服の時も同様に考へる人がありますが、小さい體に大きな模様では實際に柄が生きてこないのではあ

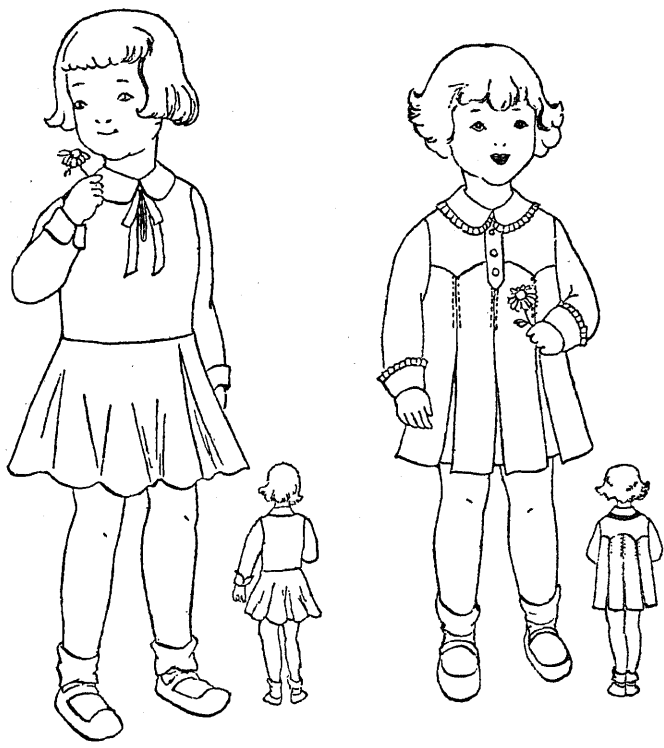
ります。色・柄についてはそのみを見て美くしいと思つても着用者即ち子供の顔の毛・皮膚の色を考へないに却つて

其の美くしい色の服を着るこゝによつて病人らしく見えたり元氣のよくない子供に見えたりするから此點特に注意すべきであります。

型について

幼児の日常生活から考へてそれに適する型であつてほしい。幼児の日常用ふる一般の服としては體の上部はきちんとした形を保ち下部はゆつたりとした形即ち裾幅が廣くて動作に便なものでなくてはなりません。上に示す二人の子供の服は最も普通な代表的のものであります。幼児期は成長の盛んなもので二年の間に胸圍は二種以上も増加し身長は六種以上も伸びるのでありますからあまり複雑な型を選ばずなるべく簡單で裁縫も手輕になし得るもの、且つ汚し易いから度々の洗濯仕上けにあまり手間のかゝらぬ簡單に處理し得る型を選びたいのであります。

子供の純潔無垢は着る物によつて飾りたて

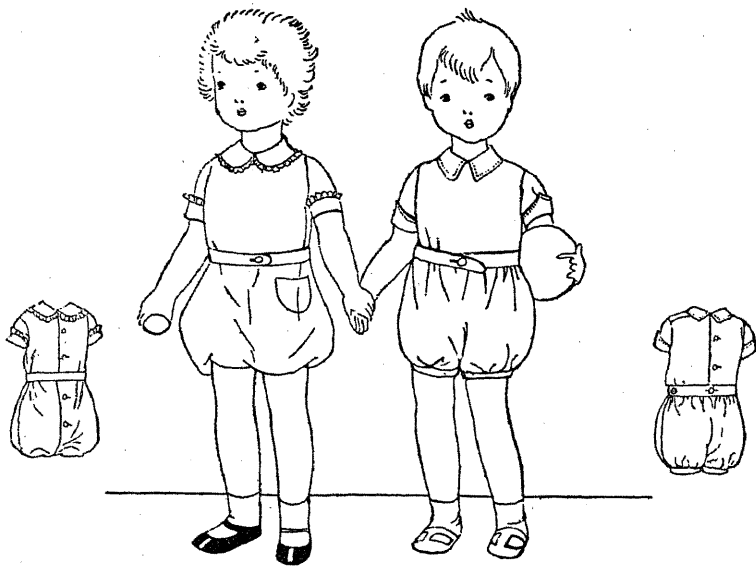


る必要はないやうに考へます。あまり裝飾の多いものは却つて着用者をそこなひ、大人を小さくした小人島の感を抱かせるものでむしろ滑稽に思はせるものであります。

殊に夏の服は最もシンプルなものでなるべく自然の中に子供を入れて育てたいのであります。それ故丈も短く裾も短く或は袖の部分はなくても差支へないかと思ひます。丈の極短い服には上着と同様の地質で作つたブルマースをはかせればよいと思ひます。

冬はなるべく室内の温度を適當にしてあまりに厚着をさせたくないのであります。何故なれば一時もぢつこしてられない子供に厚着をさせては運動が出来にくくなり各方面に及ぼす悪い影響は少くないと思ひます。此點より考慮して幼児期には輕くて暖かいもの即ち毛絲編のものが至極結構なもの考へて居ります。話は少し横道へはいりませんが要するに型としては簡單なものでよろしく決して飾りたてる必要はないと思へます。

なほ前圖に示す所のロンパースは家庭に於けるいたづら着として都合のよいものであります。



子供服に對する一般の考へについて

我が國從來の習慣として子供を非常に大切に取扱ひ食事から服装に至る迄何くれこ心を配り子寶として何はさておいても子供のこころを考へるのは親の愛情として實に美くしい所であります。しかし時には其度が過ぎて子供を玩具扱ひこし徒らに美衣美食をなさしめて却つて子供を害ふものも少くないのではありますまいか。一般的に子供の服は如何に作られなければならぬか、購入するにせよ如何なる物を選ぶべきかなどの考へをもつてゐる人は遺憾ながら多くはないと思ひます。最近子供服に對する考へ方が餘程進んで来たやうには思はれますけれどもデパートあたりの子供服を見ては依然として飾り立て時には陳列品の貳拾圓もする服に赤い豫約の札が貳拾も參拾もついてゐるのであります。子供が其服を着て一度外でボール遊びでもしたならば早速に其手入に困るであらうと思はれるものに我も我も註文する親達の氣がわからないのであります。今少し子供の生活を見つめて子供に適する服の理想をもつてほしいと思ひます。

なほ衛生の方面から一言したいのであります。洋服は非常に經濟的で一度かつて着せればそれが破れる迄手入をしなくてもよいかのやうに考へてゐる人も時々あるのであります。和服のやうに始終縫ひかへしは致さない迄も汚れたならば直ちに洗濯をなし物によつては糊をつけて火熨斗をかけいつもきちんとした服装をさせることは將來の紳士淑女としての大切な躰であります。木綿の物で結構ですから常に垢のつかない皺のゝびた服を着せてほしいと思ひます。

何事も習慣でありますが子供の冬の洋装を見るに氣の毒な程厚着をして居るのを見受けます。寒さの爲風邪にかゝらぬやうこの注意ではありませうがあまりに重ねすぎてゐる少しの運動の爲汗をかき却つて風邪をひく子供もありません。子供は活動性に富んで居るので大人の考へる程寒さを感じるものではありませんから、幼時よりなるべく薄着の習慣をつけるやうに注意を願ひたいのであります。

人形 花子さん(二)

及 川 ふ み

曆の春はまゐりましたが、お寒さはこれからで御座いませう。幼稚園で、幼児が遊ぶのにも、自然に室内遊びが多くなることで御座います。南向きの窓下にこしらへた疊一帖大の、常設おまゝごご場、三尺の茶棚に、豆ちやぶ臺の繁昌する季節で御座います。

女兒のもつこもよろこんで、日毎く〜にくりかへされるおまゝごご遊びの、中心人物、花子さんをつくつて見ませう。

花子さんのつくり方も工夫すればいろ〜こ出来ませうが、先づ最初は紙でこしらへるごく簡單なものをつくりませう。

別圖の様に、畫用紙のハツ切を斜にして、紙一ぱいに大きなものをつくりませう(別圖をそのまゝおつかひ下さいませ)。前向、後向の二枚を謄寫して用意致しておきます。最初

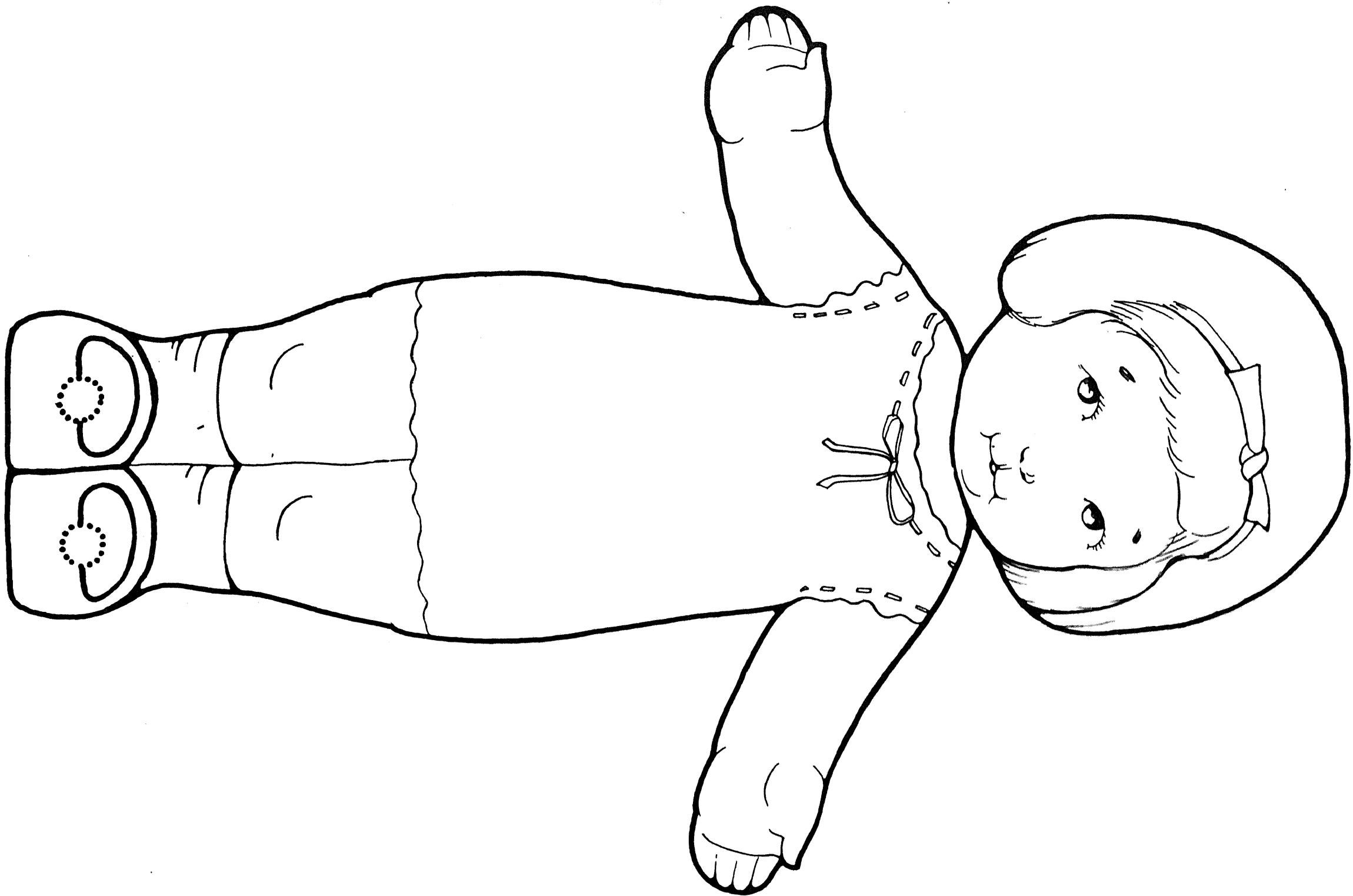
に前向の分だけ、周圍の線に沿うてきりぬき、ボール紙にはりつけます(ボール紙は出来るだけ厚いのが使用する時に、しつかりしてよいのですが、幼児がまわりをきりぬくの骨がおれますから、切れる範圍で出来るだけ厚いのがよろしう御座いませう)。よくかはきましたなら、その周圍を切りおこします。

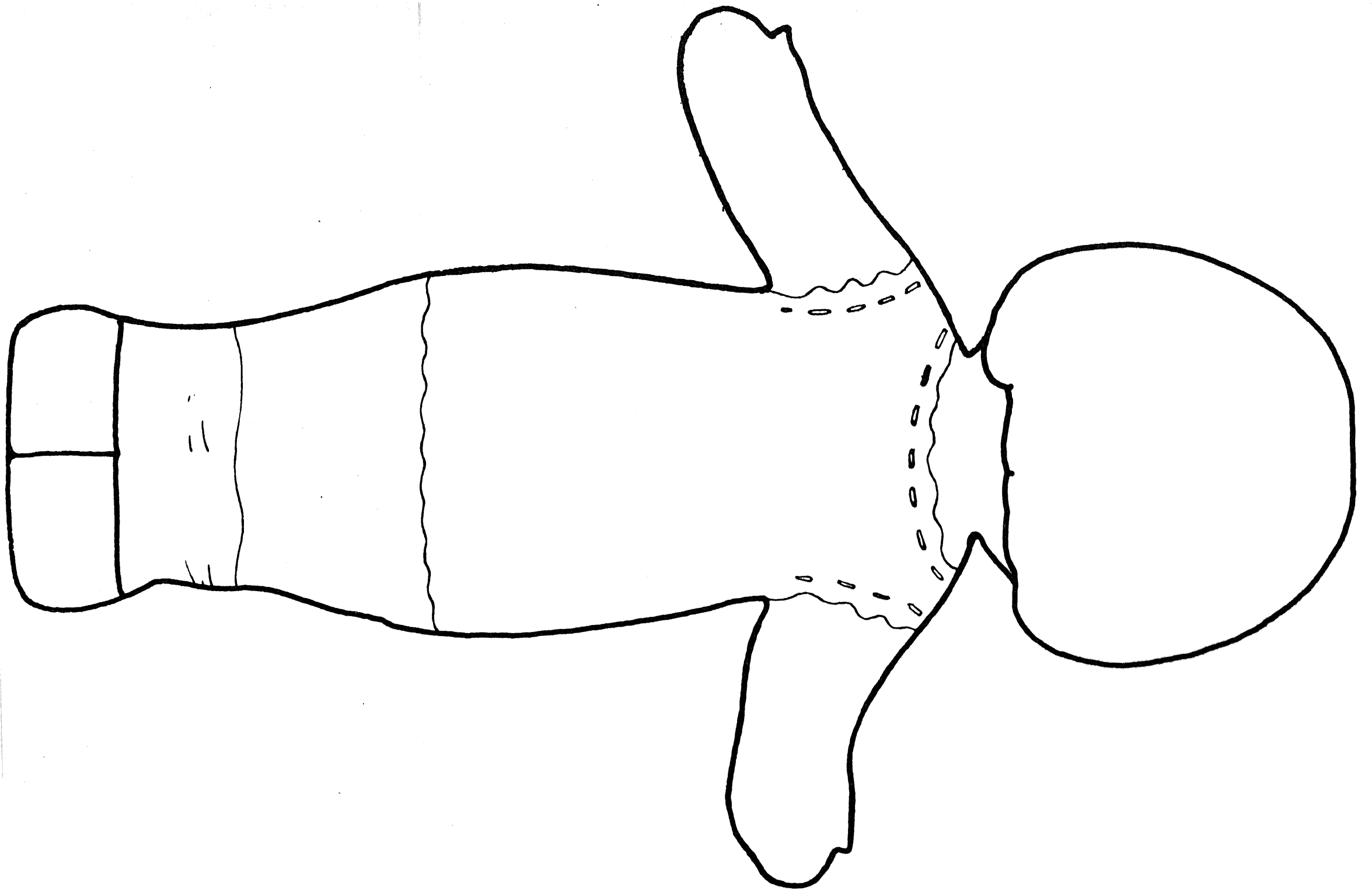
後向を又別にきりぬいて、さきの前むきのものゝ、後へはりつけます。

糊で三枚はり合せましたのを、紙がそりかへらない様に、重い本なごの下へしいておきます。

着物

花子さんのからだに合せて、適當に和服、洋服なきつくられますが、一つ二つ着物の型も御參考までに本誌にかゝりますが誌面の都合上來月號にいたします。





私の町を中心として

——誘導保育の一案——

四日市幼稚園 小 谷 き み

私の町を中心として保育案を立て、見たい、こは兼ねてからの念願でありましたが、今夏倉橋先生の、御講演、保育の真諦を伺つて一層其意を強くし、今度始めて着手して見ました。

いつも私の方では九月のお祭を利用して、カマボコ板を澤山に集めまして、其板で自動車を作る豫定になつてゐます、五六名のグループで、自動車を釘で打つ時の音は、丁度大工さんが来てゐるかこ、思はれる位に盛な音がいたします。皆嬉しそうな顔で、自動車の運轉にかゝります、然し歸る頃には、先生ごこへしまつて置ませうと、申しますのを幸に、「自動車を入れるお家を作らませうね」といへばすかさず、信夫さんは、「先生驛の前にある様な、大きなお家

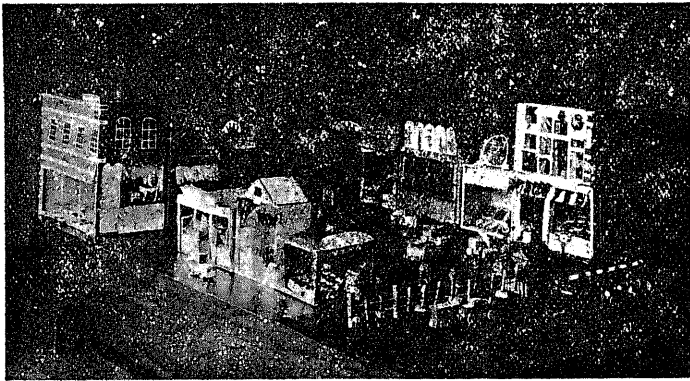
を作るさいなあ」(自動車會社のこも)「そうねあそこに大きな自動車のお家が有ますね」あんなの作りませうと云へば、うれしそうになづく。達也さんは「先生驛の前には澤山ならんでゐる、湯の山行があるし、水澤行に、諏訪行、下村行」さなか、委しく知つてゐます、それでは此お室をあのお店の前として、自動車のお家から、自動車の道、それにお店屋さんも作つて、お室の内を町にしませうね」と言へば、皆手をたゝいてよろこぶ。

今から驛の前をよく見に行きませうと云へば、皆の眼は又輝きました、然し随分交通量の烈しい場所であるため、一度に皆をつれて行く事は、一寸考へられますので、男女別に、二回に出かけました。

驛の構内、驛前の廣場、自動車會社、附近の店屋、本町
マート、菓子屋、ビルヂング、踏切、遮
斷機、シグナル、なき觀察して歸る。

次の日相談會が、開かれました。「昨日よく見て來ました所、さうして作りませうか」、云へば、いつもよく創作する鈴木さんは、「先生く僕はこうして釘打つて大きな板をはめて、ずつここ引いて」、こ手まねで自分の意見の發表です。自分にはもう頭の中に計畫が出来上つてゐるらしい。「先生わたしお菓子屋さん」、「わたしマート」、「わたしもマート」、「僕は汽車道」、「僕は電車道」、「先生僕切符賣る」、「僕は切符切る」清水「先生誰が切符切るの？僕したいなあ」といつて來る、かなたの方では、ウマイゾー、ミ大きくよろこびの歡聲があがる。

かくして、思ひ／＼に發表して、よろこび合ひましたが



要するに、男兒は驛の方へ、發展したそうであり、女兒は

店屋の方へ發展したそうでありましたから、次の様な、プランになりました。

私の保育プラン

生活題材：……私の町

生活發展

自動車屋

ビルヂング

菓子屋

魚屋

おもちゃ屋

シグナル

遮斷機

車掌の腕章

切符賣場

汽車遊び

自動車遊び

保育内容

街頭の觀察

談話

觀察

店の外形及
内容整理

窓 玩具

紙にて お菓子 切符

果物 腕章

粘土―野菜 果物 菓子

木工―自動車 遮断機 シグナル

右の様な、プランは出来ましたが、之を週に配當して見
ますと、今後幾週間もかゝつて始めて、出来上る事にな
りませう。

豫定

月曜 自由畫 學校を見て

汽車の切符作り

お家作り……ビルディング(天ボール空箱)

林檎の觀察

火曜 唱歌 もみぢ

林檎籠の塗り方

水曜

自動車のエナメル塗り(塗れてゐない子)
汽車ごっこ

お家作り お菓子屋 お菓子製造

遊戯 うさぎ 其他

林檎籠の切りぬき

木曜

唱歌 もみぢ 僕等の兵隊さん
汽車ごっこ

お家作り 自動車屋 お菓子屋ごっこ

林檎籠の手を作る(組紙をあみて)

園藝 フレーム内の害虫検査

金曜

遊戯 うさぎ もみぢ 其他
林檎籠の仕上げ

お家作り 自動車屋ごっこ

土曜 汽車遊び

お家作り おもちや屋

お話 兎のお使ひ

一週間の豫定は、右の様に出来ましたが、三十八九名を思ひ／＼に遊ばせ様とする時、いつも保姆の手の足りない事を痛感したのでございます。

汽車遊びの爲に思つて、以前銀行ごっこに使つた丸窓のお家を出しましたところ、忽ちそれが、切符賣場になりました、恒幸さんはすぐ「先生切符を作るのに此箱のふた頂戴」いつて來ます、僕にも、僕にも、次から次へ厚紙は切符になります、先生鉛筆、鉛筆さいつて鉛筆が持ち出されて、早速驛名が書き込まれました、其驛名を調べて見ます、あやしげな字なりに、ナラ、オオサカ、ナゴヤ、ヨツカイチ、トキヨ(東京)、モジ、シモノセキ、サガ、なごが出来てゐます此外幼児の驛名に、ウノモリ、シンチョ、ナカマチ、なごが出来てゐます。

すぐお隣の室が、遊戯室であるのを幸に利用して、汽車道が出来ました、ヒル氏積木をレールさして、遊戯場一ぱ

い螺旋狀に、線路がしかれました。

切符賣場で、切符を買つた者は、遊戯場の入口で鉄を入れてもらつて、ブリツチを渡つて汽車に乗るのです、ブリツチに室内スベリ臺を使つた所は階段を上る所から考へたのでせう、そこを下りるにすぐ汽車道が付いてゐます、幼児自らは、汽車兼乗客なので、一生懸命にシユ／＼いつて歩きます。驛長さん 車掌さん レールを直す者、切符を賣る者、改札する者、出口掛りそれぞれに役に付きます、其うち車掌さんの聲らしく、ハツタ／＼次は皆さん、のりかへであります、ピリ／＼共に手を上るに又動きナゴヤ／＼呼び聲もついで、スシ、ベントウ、サンドイツチさなか／＼呼び聲もうまく、一廻りしては下りて又切符を買つて乗り始めます。此様に面白そうに遊んでゐるグループもあれば、又お家作り之餘念ないグループもございませう、朝お顔を見るなり先生お窓切らして、先生お菓子作る、セロハンがもうありませんさいつて來ます。

一團は汽車遊びに、一團はお家作りにお菓子作り、又一團はおさかな遊びさ皆の興味は、はちきれぬばかりです、各

自は思ひくゝに自分の遊びに熱心なもので、そばでぎんなに騒々しくても見向もせず、自己のなさんごする仕事に一生懸命である事は、私共のいつも感じさせられます。

かくして私の町を中心としての遊びは、今暫く續くこゝでせう、お店が出来て町が出来れば、市中を自動車がかけまわつて、又一しきり遊べる事と思ひます。

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は本年三月に於て左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとされてゐます。それぞれ適當の働き場に於て、斯界のためその職に熱心従事したい希望に燃えてゐます。御採用を願ひます。(倉橋生)

姓 名	出 身 學 校	生 年 月 日	姓 名	出 身 學 校	生 年 月 日
秋田 好枝	岡山縣山陽高等女學校	大正四年二月五日生	佐原 尙子	東京私立中野高等女學校	大正五年三月十二日生
天岫 法子	静岡縣立沼津高等女學校	明治四十五年二月二十日生	田島 つぎ	東京市立目黒高等女學校	大正五年十二月二十日生
飯田都留子	東京府立第一高等女學校	大正三年九月二十九日生	大洞多喜子	東京女子高等師範學校	大正五年一月三十日生
石田 貞子	静岡縣濱松市立濱松高等女學校	大正五年一月二日生	中村 千代	東京女子高等師範學校	大正四年五月十九日生
岩澤 妙	岩手縣立黒澤尻高等女學校	大正四年十月十一日生	野呂八壽子	東京私立日本女子大學附屬高等女學校	大正四年八月八日生
小野 禮	東京私立青山學院	大正四年十月二十六日生	羽生 京	静岡縣立三島高等女學校	大正五年十月二十二日生
景山 泰江	東京府立第五高等女學校	大正三年十一月二十二日生	藤澤 敬子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正四年十二月十九日生
蕨野 徳枝	東京府立第六高等女學校	大正三年九月十三日生	松田伊都子	東京府立第六高等女學校	大正四年九月二十四日生
川上 壽子	東京府立第六高等女學校	大正四年十月十六日生	滿井 ヨシ	福島縣郡山市縣立安積高等女學校	大正五年五月二十一日生
桑原 正子	東京私立跡見高等女學校	大正二年一月十五日生	森山 好子	東京府立第六高等女學校	大正二年十二月二日生
小菅 トヨ	岩手縣立花巻高等女學校	大正五年一月四日生	山本 シン	新潟縣見附高等女學校	大正五年四月二十二日生
佐藤 トシ	群馬縣富岡高等女學校	明治四十三年四月二十日生	渡邊 壽代	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正二年九月十四日生



童話 我儘大男

—— オスカア、ワイルド原作 ——

津 田 芳 雄



子供達は學校から歸るまで毎日大男の庭に行つて遊びました。

それは柔い草が一面に青々として居る廣い美しい庭でした。草の上にはあちこちにお星様を散らしたやうに美しい花が咲いてりました。そして桃の木が十二本あつて、春になるまで一杯ピンクで眞珠のやうな綺麗な花が咲き、秋にはおいしい實がなりました。またその木に小鳥がさまつてきて、好い聲で歌ひますので、子供達はお遊戯をやめてはそれに聞き入るのでした。

「なんて好い所でせう」子供達は話し合ひました。

所が或日のこき大男が歸つて來ました。大男はコーンウオール「人食ひ鬼」の所に行つて、七年程遊んで來たので

した。七年過ぎるまで、あまり色々な話の出来る男でありませんでしたので、話の種子が切れて、自分のお城に歸る氣になつたのです。お城に着いてみるまで子供達が庭に入つて遊んでるのです。

「おい、其處で何をして居る？」

大男はざら聲を張り上げました。するまで子供達は走つて逃げてしまひました。

「俺の庭は俺の庭ぢや。それ位のこきは誰にだつて分つてる筈ぢや。俺より外の者がこの庭で遊ぶこきは承知しない」。

かう云つて大男は庭を高い塀で圍んでしまひました。そしてこんな立札を立てました。

この庭に立入つた者は
お巡りさんに引渡す

大男は大變我儘な男でした。

可哀相に子供達は遊ぶ所が無くなつたのです。路で遊んでみましたが、路では埃がひきくて、堅い石ころは一杯あるし嫌だつたのです。子供達は學校が退けるまでその高い塀の周りをぶらついて中の美しい庭の噂をするのでした。

「此處は本當に好い所だつたね」

とお互に申しました。

それから春が来て、そこいら中何處にも花が咲いて小鳥が囀るやうになりました。さうしたものがこの我儘大男の庭の中だけは未だ冬でした。子供達がるないので小鳥は歌ひたくなかつたのです。また木は花を咲かすことを忘れたのでした。一度だけ、綺麗な花が一つ、草の間から頭をもたげたこゝごがありました。例の立札を見て、子供達が本當に氣の毒になり、直ぐ又地の中にもぐり込んで、眠つてしまつたのでした。喜んだのはお雪さんとお霜さんだけで

した。

「春さんはこの庭のこゝごを忘れちやたのよ。私達は年中此處で暮しませうね」。

二人は申しました。お雪さんはその大きな真白い外套で庭の草を被ふてしまひ、お霜さんは木を皆銀色に塗りました。それから二人は北風さんと呼んだら、北風さんがやつて参りました。北風君は毛皮にくるまつて来て、一日中庭を咆え廻つて、煙突の筒冠を吹き落したりしました。

「これは面白い所だ。霰君を呼ばなくちや」お彼が云つたので、霰君も参るこゝごになりました。霰君は毎日三時間程宛、お城の屋根を叩きつけて、瓦を大抵破つてしまひました。それから一所懸命庭をぐるぐる駆け廻りました。霰君は灰色の着物を着てゐて、吐息イキは水のやうでした。

「さうしてこんなに春の來るのが遅いんだらう。陽氣が變るこゝごに」。

我儘大男は窓際の椅子に凭つて、外の冷たい真白な庭を眺めながら申しました。

だが春は参りません、夏も参りませんでした。秋になる

「ここの庭にも果物が金色に熟しましたが、大男の庭にだけは一つも成りませんでした。」

「この人はこゝても我儘なんだから」

「秋は申すのでした。それでこの庭はいつも冬で、北風や霰や霜や雪が木の間を踊り狂つてゐるだけでした。」

或朝のこゝ、大男が寢床の中で眼をさましてゐますこゝ、

何か素敵な音楽が聞えて來るのでした。あんまり素敵なので、これはてつきり、王様の樂隊の通つてゐるのだ。大男は思ひましたが、實はそれは、一羽の小さい紅鸞ベニヒョウが窓の外で歌つてゐるのだつたんです。けれども彼は随分久しいこゝ

こ小鳥の歌ふのを自分の庭で聞かなかつたものですから、

この時の紅鸞ベニヒョウの聲が彼には世界の一番綺麗な音楽に聞えたのです。それから彼の頭の上では霰ベニヒョウが踊りを止めました。

北風君も咆えるのを止めました。そして開いた窓からは實に好い匂が匂つて來ました。

「やつこ春がやつて來たな」

「大男は申しました。そして寢床から跳び出して外を眺めました。」

するに彼は何を見たでせう。

彼は實に不思議なものを見たのです。堀にある小さい一つの穴から子供達もぐり込んで來て、木の枝に上つてござつたのです。彼に見える木こゝろには小さい子が一人宛上つたのです。そして木達は子供達が歸つて來たこゝを大變に喜んで、體一杯に花を咲かせて、その腕こゝろを子供達の頭の上にやさしく揺つて居りました。また小鳥達は嬉しさのあまり飛び廻つたり、囀つたりして居り、花達は線の草の上から顔をのぞかせて笑つたりして居りました。

それはほんまうに美しい眺めでした。が只一隅だけまだ冬の儘になつてゐる所がありました。それは庭の一番奥の隅でした。そして其處に一人の小さい男の子が立つてゐました。この子は小ちやくて、手が木の枝に届かないもので、

メーメー泣きながら木の周りを廻つてゐました。その木は可哀相にまだすつかり霜こゝろに雪に包まれてゐて、その上では北風の奴がビュービュー、ビュービュー咆えてゐました。

「おのぼりよ、妨ちゃん」。

「木は云つて、出來るだけ枝を低く垂れましたが、その子

はさても小ちやくて駄目でした。

大男はそれを室から眺めて、さすがに可哀相になりました。そして彼はかう申しました。

「俺はほんまに我儘だつた。春が此處に來ないわけが漸く解つた。俺はあの小ちやい子をあの木の一番高い所へ乗つけてやらう。それからあの堀をぶちこはしちまはう。そして俺の庭を何時までも何時までも子供達の運動場にしよう。」

大男はほんまに今までのこみを後悔したのでした。

そこで、彼はそつと階段を降りて、表のドアを靜かに開いて、庭に出て來ました。けれども子供達は大男を見て、驚いて皆逃けてしまひました。そして庭は又元の冬にかへりました。只例の小ちやい子だけは逃げませんでした。ミいふのは涙が一杯眼にたまつて、大男の出て來たのが見えなかつたのでした。それで大男はそつとその子の背後に忍びよつて、その子を自分の手の上に靜かに乗つけて、例の木に上げてやりました。するま直ぐにその木に花が咲いて、そこへ小鳥も來て歌ひました。小ちやい子は兩の腕を

差伸して大男の頸に抱きついてキッスをしました。

ほかの子供達もこの様子を見て、大男がもう悪い人でないこみが分つたものですから、走つて戻つて來ました。それと一緒に春も戻つて來ました。

「子供達、この庭はもうお前達のだよ」

ミ大男は申しました。そして彼は大斧を持つて來て、堀をぶちこはしてしまひました。近所の人達が十二時に市場に行く時には、彼等が今まで見たこみのない程な美しい庭で、大男が子供達と一緒に遊んでゐるのを見るのでした。

子供達は一日中遊びました。そしていよいよ夕方になつて左様ならをしに大男のそばへ寄つて來ました。

「だけれぎあの小ちやい子は？あの俺が木に乗つけてやつたあの子は？」

大男は訊ねました。彼は自分にキッスして呉れたミいふので、その子が一番好きだつたのです。

「知りません。歸つてしまつたんでせう。」

子供達は答へました。

「お前達はあの子にね、明日きつミ來るやうに云つておく

れ。

大男は申しました。けれど子供達はその子の家は何處だか知らないし、今まで見掛けたこどももない子だ。申しましたので、大男はすっかり悲觀しました。

子供達は毎日、學校が終るまでの庭に来て、大男と遊びました。けれど大男の一番好きな子はちつこも姿を見せませんでした。大男は子供達みんなに大變親切にしましたが、最初にお友達になつた子に會ひたくてしやうがありませんでした。そしてよくその子のこみを口に出しては

「あの子に會ひたいなあ！」。

と申しました。

幾年か過ぎて大男は大變年を取つて弱りました。彼ももう遊び廻るこみが出来なくなりました。それで大きな肘掛椅子に腰掛けて子供達が遊んでゐるのや庭を、眺めて楽しんでゐました。

「わたしには美しい花が澤山ある。だけれど子供達はその中で一番美しい花だ」。

と彼は申しました。

或冬の朝、大男は着物を着ながら窓の外を見ました。彼はもう冬を憎いとは思ひませんでした。さいふのは春の眠つてゐる時が冬なんで、今花が休んで居る所だ。さいふこみが分つてゐましたから。

さ急に彼は驚いて眼をこすりました。そしてしきり目を見張りました。確かに不思議な不思議なものが見えたのです。さいふのは庭の一番奥の隅に、綺麗な真白い花に包まれてしまつた一本の木があつたのです。その枝は皆金色で、それに銀色の果物が垂れ下がつてゐました。そしてその下に例の彼の大好きであつた小ちやい子が立つてゐるのでした。

大男は大喜びで二階から駆け下りて来て庭に出ました。

彼は草の上を走つて行つて子供に近寄りました。そして子供の側に寄る。大男は怒つて顔を赤くしました。

「誰がお前に怪我なんかさせたのだい。」

大男は申しました。さいふのは子供の兩方の手の平に一つ宛釘のあみがあり、小ちやい兩方の足にも一つ宛釘のあみがあるのでした。

「誰がお前に怪我なんてさせたのだい。お云ひよ。わしが大きな剣でそ奴を切り殺してやる」

ミ大男は嗚鳴りました。

「いゝえ、これは愛の傷なんです」

ミ子供は答へました。

「お前は誰？」

大男は申しましたが、何だかかう急にその子が只人でない尊い方であるやうな気がしてきて、彼はその前に跪きました。

するミ子供は大男にニコニコしながらかう申しました。

「あなたはいつか私をあなたのお庭で遊ばせて下さいましたね。今日はあなたを私の庭へ御案内します。其處は天國なんです」。

そしてその午後子供達がいつもの通り庭に入つて來た時には大男は例の木の下に眞白な花にすつかり蔽はれて死んで居るのでした。

をばり

東京女子高等師範學校

保育實習科生徒募集

本年度保育實習科生徒入學願書受附期日は一月二十日から三月十日まで、手續の詳細は同校事務所宛貳錢郵券貼附封筒封入問ひ合はされたしとのことです。

雜 錄

四國四縣保育大會概況

香川愛媛高知徳島の四國四縣の保育事業關係者が一堂に會した事は始めてでした。多數の來賓を迎へ會員の集まつた者一八四餘名それに徳島縣女子師範學校保母養成講習科生や本科一部の教生一同傍聽席について隨分の盛會でございました。別紙の通りの日程で喜びのうちに終りました。

四國四縣保育大會

主催 徳島縣教育會保育研究部

徳島市教育會保育研究部

日時 十一月二十五日(土)十一月二十六日(日)二日間
場所 徳島縣女子師範學校附屬幼稚園

日程

第一日 (十一月二十五日)

午前九時 九時四〇分

參觀

徳島縣女子師範學校附屬幼稚園

九時五〇分

閉會

議 事

- 一、開會の辭
- 二、國歌齊唱
- 三、勅語奉讀
- 四、主催者側挨拶
- 五、徳島縣學務部長挨拶
- 六、徳島市長挨拶
- 七、來賓祝辭
- 八、徳島縣女子師範學校長挨拶

一〇時四〇分

一、建議案

(イ) 市町村立幼稚園保母加俸令ヲ速カニ制定セラレンコトヲ其筋ニ建議スルコト 徳島市 保育會

(ロ) 専任保育指導員ヲ設置セラル、ヤウ其筋ニ建議スルコト 徳島縣板野郡鳴南保育會

二、協議題

(イ) 幼児教育ヲ普及向上セシムルニハ幼稚園ト共ニ託兒所ヲ増加セシムルニアリト思考ス右ニツキ各縣左ノ現狀承リタシ

○各縣幼稚園及託兒所ノ數(公私別)農繁期託兒所ヲ除ク

○縣學務課社會課援助ノ程度

○設備及組織ノ模様 高松市 天神幼稚園

高松市 西北幼稚園

(ロ) 四國四縣保育大會ヲ毎年開催シテハ如何

香川縣 大川郡丹生幼稚園

午前八時三〇分 一〇時三〇分

參觀

德島市立 寺島幼稚園

(ハ) 四國保育研究協會ヲ組織シ各園ノ聯絡機關トシテノ會報ヲ年二回乃至三回出版シテハ如何

同 新町幼稚園

愛媛縣 宇摩郡三島幼稚園

同 富田幼稚園

(ニ) 園兒ノ養護ニ關シ最モ留意スベキ事項如何

私 立 渭水幼稚園

德島市 保育會

一一時 講 事

(ホ) 誕生會ノ實施狀況及將來ノ計畫承リタシ 香川縣 女師附屬幼稚園

一、協議題

(イ) 母姊教育ノ適切ナル良法如何

德島縣海部郡 由岐託兒所

(ロ) 保育事業ヲシテ今一層普及發達セシムルニ適切ナル方法如何

德島縣板野郡 鳴南保育會

一一時四五分 研究發表

一、人形芝居について 德島市佐古幼稚園 虎谷 イサ

二、幼兒と繪畫 德島縣三好郡池田幼稚園 秋田ヒサノ

三、園兒の個性調査について 德島縣撫養町黒崎幼稚園 後藤眞直子

一時四五分 實地保育

二時一〇分乃至三時四〇分 講 演

幼兒の取扱に就て

奈良女子高等師範學校保母 會澤カタエ先生

第二日 (十一月二十六日)

午前八時三〇分 一〇時三〇分

三時

幼兒教育の本質 廣島高等師範學校教授 玖村敏雄先生

午後一時 三時 講 演

學藝會參觀 德島女師附屬 幼稚園 小學校

同

閉會

追記 德島市長招宴(縣外會員ノ方) 二十五日午後四時ヨリ借

樂園ニテ

協議題

イ、四國四縣保育大會ヲ毎年開催シテハ如何

香川縣丹生幼稚園

ロ、四國四縣保育研究協會ヲ組織シ各園ノ聯絡機關トシテ會報

ヲ年二回乃至三回出版シテハ如何 愛媛縣三島幼稚園

右協議事項

一、四國四縣保育大會ヲ開催スルモノトス

二、會場ハ四國四縣輪番ニ之ヲ開ク

三、會費ハ之ヲ徵集スルコトアルベシ

四、大會ニ關スル事務ハ開催地ニ於テ之ヲ掌ル

五、保育協會ハ時機ヲ見テ組織スルモノトス

以上

決議

次會ハ香川縣ニ於テ之ヲ開催ス

但シ開催時機ハ主催縣ニ於テ之ヲ定ム

委員

一番 久住元子

九番 野口貞

十七番 兒島虎三郎

二十二番 木村岩太郎

二十四番 藤本しげ

協議題

園兒の養護に關し最も留意すべき事項如何

右協議題につき委員會に於て慎重審議を重ねました結果次の如き案を得ました茲に報告申上ます

昭和八年十一月二十五日

委員

德島縣德島市寺島幼稚園

香川縣女子師範學校附屬幼稚園

同 多度津幼稚園

愛媛縣今治愛兒園

德島縣德島市佐古幼稚園

同 寺島幼稚園

同 板野郡川内北幼稚園

同 精華幼稚園

同 德島市二葉園保育所

同 女子師範學校附屬幼稚園

協議題

園兒の養護に關し最も留意すべき事項如何

三十二番 高木眞一 郎

三十三番 好井智源

三十九番 古川馬平

九十九番 重本賢市

百十四番 後藤珉太郎

村永芳一

長岡アヤコ

大場アサ

高木眞一 郎

岩佐千代子

小川サダ

村井マサノ

堺正一

土屋憲治

大村ヒサ子

幼稚園保育の經營上養護の大切なるは何人も痛感する所であるが、今四國四縣の實態に鑑みる時は、左の諸項に對し特に留意すべき必要ありと認める。

- 1、衛生的施設を完成すること。
 - 2、體育運動に一層の注意をなすこと。
 - 3、幼児生活上の良習慣を養成すること。
 - 4、幼児疾病の早期發見及び豫防につとむること。
 - 5、幼児の營養増進に努力すること。
- 尙ほ次に以上の諸事項を實施するにあたり、設備、施設、及び家庭との協力、保姆の努力點につき特に注意すべき要點を列擧する。

養護に關する設備上留意すべき主要事項

- 1、園舎の敷地は保健上適當なる地域を選ぶこと。
- 2、建築上園舎の配置その様式をして通風採光及び温度の關係を適當ならしむること。
- 3、少くとも幼児一人當り一坪半以上の遊園を設くること。
- 4、遊園には植樹、芝生、花壇、及び各種安全なる運動用具、休養のためのベンチ、便所等を適當に配置すること。
- 5、衛生室を設け休養加療に必要な設備をなすこと。
- 6、健康相談室を設け必要なる設備をなすこと。
- 7、手洗場、うがひ場障り物入れの箱の設備をなすこと。
- 8、給食に要する炊事場及び用具を備ふること。
- 9、湯呑み装置を設くること。

10、辨當溫めを設備すること。

養護上の主要なる施設

1、身體検査

毎月一回定期に及び臨時に行ひ、發育の状態、疾病の有無を調査し家庭と協力して適當なる處置を執ること。

2、發熱者の繼續計測

健康異常兒につき又は全幼兒につき毎日刻に體溫を計測し異變の豫知、若くは家庭謹告の便とする。

3、光線療法

腺病質其他異常兒に對し家庭と相談の上、醫師の指揮の下に毎日實施。

4、蛔蟲驅除

毎月一回海仁草を服用する。

5、辨當調査

各人別に毎日食品名を記録し、毎月一回其の調査を行ひ家庭指導の資とする。

6、給食

偏食矯正、母姉の營養知識向上の目的を以て、每週一回母姉助力協同の下に實施す。

7、齒ブラシ訓練

食鹽水を用ひ、食食後一齊實施。

8、齒科診療

身體検査の際校醫により輕微なる治療を行ひ、其他は家庭よ

り直接受診加療せしめる。

9、うがひ訓練

流行性感冒に備へ、アデノイド豫防のため毎日登園即時實行せしめる。

10、健康相談

校醫を煩はし毎週一回、特殊幼児又は任意幼児につき父母立會の上受診し指導を受けしめる。

11、園外保育

郊外の適當なる場所を選び自由なる活動をなましめる。

家庭と協力すべき事項

1、齲齒、皮膚病、トラホーム、アデノイド、寄生蟲其他疾病の治療驅除。

2、腺病質幼児其他異常兒の處置。

3、活動に便なる服裝の着用。

4、衣服帶等の緊縛を避くること。

5、衣服特に肌着の清潔を保つこと。

6、薄着の習慣をつくること。

7、身體特に爪、耳、眼、頭髮の清潔を保つこと。

8、就眠の時刻を定め睡眠に關する良習慣を養ふこと。

9、偏食の矯正。

10、幼児營養食の注意。

11、ハンカチーフ、鼻紙を携帯せしむること。

保母の特に努力すべき事項

1、運動遊戲については生理解剖學上の要求と制限を考慮して

材料を選択し實際指導に當りては努めて疲勞の關係に注意すること。

2、お話、手技、唱歌等の際正しき姿勢を保たしむること。

3、各種疾病、健康異常體質についての明瞭なる知識を修得すること。

4、疾病傷害の突發に對する救急處置法を修得すること。

5、常に幼兒の顔色と活動振りとを診断すべきこと。

6、絶えず營養學上の新しき業績に注意し、特に幼兒營養に關する知識を修得すること。

7、經濟的なる營養料理の獻立を研究し、偏食矯正に有效なる料理法を修得すること。

8、食事訓練に努むること。

9、鼻呼吸の習慣をつくること。

賀正 倉橋 惣三

全國幼稚園の方々からの御年賀を銘謝いたしました。略儀ながら誌上より御挨拶申し上げます。尚、昨年中病氣につき御心配をかけましたが、お蔭にて全快、一段三元氣の新年を迎へました。併せてお禮申上げます。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫

主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園 主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ隴出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價		廣告	
一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二面一頁
半年分	金貳拾圓	金貳拾圓	金貳拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	等面一頁	一頁以下
拾冊送	金四圓貳拾錢	神田區駿河臺	三品田
拾冊送	金四圓貳拾錢	廣告社	に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
昭和九年一月十五日印刷納本
昭和九年一月十五日發行
幼兒の教育 第三十四卷 第一號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
發行所 柴山 則常
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 會社 杏林 舍
東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代文の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申込を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

倉橋先生の力作・幼稚園の二大名著

東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

四六判三百餘頁
挿繪澤山悉く珍圖
定價金二圓五十錢

幼稚園保育法眞諦

保育法の最良權威者

著者は幼兒教育並に家庭教育の第一人者として曩に長くも此點に御關心深き、兩陛下の御前講演の榮に浴され、常に我國保育界の最高指導者であり、現に本邦最古最良の東京女高師附屬幼稚園主事にて文部省社會教育官を兼ねられ、而も人間味豊かな人格者として天下定評の士である。

現代保育法原論完成

倉橋先生は稀に見る純眞の教育者にて著書少く僅に「幼稚園雜草」有るのみ。本書は懇願數年初めて完成されたる新書にて現代に於ける最も完備系統ある保育原論である。

世界一の設備皆掲載

小石川に新建築の東京女高師附屬幼稚園の施設經營は世界的に保育實際の寫眞を掲載す。其大部分を居ながらにして見得る様に多數の部分的全體的全體的並に保育實際の寫眞を掲載す。

【目次】

第一篇 幼稚園保育法の眞諦	三生活へ教育を	十幼稚園に於ける保母の位置	七保育案立案度及徹底度	九日々の實際生活の尊重
一教育に於る目的と對象形態	四幼兒生活の自己充實	二無案保育	六保育案と自由遊び	十自由遊び
二幼兒生活と幼稚園生活	五幼兒生活の充實指導	三誘導の保育案	八保育案の創造性	十一から仕事へ・三個分組
三幼兒生活の陶治	六幼兒生活の誘導	四保育案の採りどころ	九保母の生活性	十二四個の時間割・五生活態度による分組合せ
四幼兒生活の個性	七幼兒生活の指導	五保育案と保育項目	十保母の生活性	十三日々の實際生活の尊重
	八幼兒生活の個性	六保育案立案度及徹底度	十一保母の生活性	
		七保育案立案度及徹底度	十二保母の生活性	
		八保育案立案度及徹底度	十三保母の生活性	
		九保育案立案度及徹底度	十四保母の生活性	
		十保育案立案度及徹底度	十五保母の生活性	
		十一保育案立案度及徹底度	十六保母の生活性	
		十二保育案立案度及徹底度	十七保母の生活性	
		十三保育案立案度及徹底度	十八保母の生活性	
		十四保育案立案度及徹底度	十九保母の生活性	
		十五保育案立案度及徹底度	二十保母の生活性	

相幼稚園史

東京女子高等師範學校 倉橋惣三先生同校新庄よしこ先生共著 附録四百餘頁 定價三圓五十錢

一苦心二十年幼稚園史完成す
震災にて一時頓座し其後再計畫の上蒐集考察の結果完成す
二本園は昭憲皇后的御意に成り其後代々の皇后陛下の行啓ありて正に幼稚園の本山なり
三原稿千餘枚挿繪百餘を整理我國唯一無比の幼稚園史なり

東大 京阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目一〇三番七番
大阪市南區安堂寺一丁目二番八番
東京市神田區神保町一丁目一〇三番七番
大阪市南區安堂寺一丁目二番八番

保 育 證 書 と 表 簿 類

幼稚園の御經營に幼兒保育に、何れも永年の御經驗を持つ先生方が、種々の御意見を持ち寄つて按配された表簿用紙と保育證書。

◇保育證書——堅緻な厚手の上質紙に文字を墨に、周圍輪廓を金刷に致した壯麗なもの。夫れに、姓名年月日等を書き入れるやうになつてゐます。御園名入りの印刷は成可く即刻御用命を。

一〇〇枚	園名入	金 四 圓
五〇枚	園名入	金二圓五十錢
無 名	一 枚	金 五 錢
◇出席簿用紙——一〇〇枚	(二年分)	金 一 圓
◇豫定案兼日誌——一冊		金一圓二十錢
◇在籍簿用紙——一〇〇枚		金 八 十 錢
◇月 謝 袋——一〇〇枚		金一圓四十錢

以上何れも強靱な上等紙質に到れりつくせりの各欄を配し、何れの御園でも直に御使用に遺憾なき各園必備の表簿類。

株 式 會 社 三 井 物 産 館

本店 東京・神田・四ノ町二ノ段(33)電話九二八七番
 出張所 大阪・東區備後町五ノ六二電話本局一八九八番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 毎月一回十五日發行

昭和九年一月十二日印刷納本
 昭和九年一月十五日發行

定 價 三 十 五 錢